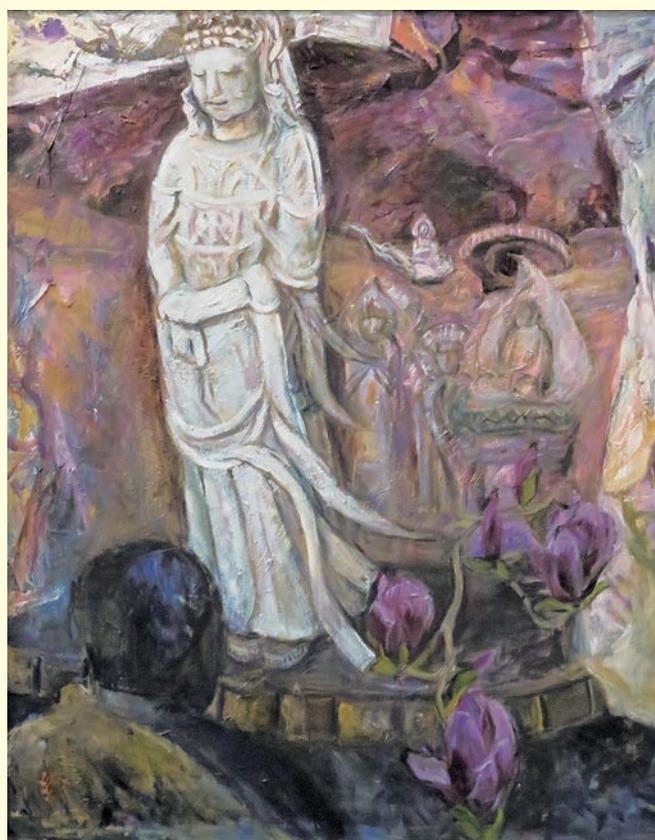


愛媛大学教育学部

第134号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部事務課内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-9395

E-mail : dosokai.ed.ehime@gmail.com

コロナ禍の三年目



愛媛大学教育学部
同窓会会長
高橋 治郎

同窓会会員の皆様、お変わりございませんでしょうか。唐突に「新型コロナ」だ。全国の学校を休校とする」と発表されて以来、首相が二人代わり、今や三人目の岸田首相になり、マスク生活も三年目を迎えています。当初、「普通のマスクではコロナウイルスが通り抜けるので、医療用のものでなければならぬ」と言われていましたが、国から「アベノマスク」なるものが送られて来ました。このマスクは、昔（昭和三十年代、小学生の時）、学校給食の配膳係が着けたガーゼマスクと同じものだと懐かしく思い、また、私には小さいし、非常に高価なものであるのです、大事にしまいでいます。

マスク生活が続いていますが、この五月の大型連休（私は毎日が休日ですが……）に行動制限がなかったものだから全国的にコロナ感染者が増大しています。愛媛においても三百人、二百人越えの日は続いています。おまけに三年たっても飲み菓の特効薬はできず、「若者は三回目の、年寄りも四回目のワクチンを注射せよ」という広報がなされています。それから、三密を避けよ、手洗いうがい、マスクを忘れるな……と。感染対策はやっていっているのですけど、なかなか感染者数は減りません。なのに「距離が離れていた、近くても会話をしなければ、大人も屋外でマスクをしなくともよい」と言い出しました。

マスク着用が緩和されつつありますが、愛媛県の感染者数が多い状況が続いていますので、残念ながら「第十八回教育学部同窓会懇親会」も中止ということになりました。「第十七回」に続き二度目ですが、「教育学部同窓会懇親会」がクラスターということにでもなれば、大ごとです。断腸の思いで中止と決定しました。現職の教員が大勢参加してくれる懇親会ですし、年長者が雇えば命取りになりかねませんし……。しかし、まさかこれほど長期間、コロナ禍が続くとは思っていませんでした。

た。治療法の研究、難しいのですね。だから専門家と称する人たちの発言が、新型コロナの国内発症時から何も変わらないし、マスク着用の是非についても一貫性が無いのでしよう。

さて、コロナ禍における世界各国の対応の違いを見ていると、コロナなどは風邪と同じで恐れることはないとするものやウィズコロナ、ゼロコロナ等々、様々です。感染者や死者が出て経済活動を優先するという立場か、米国では感染者八、二四三万七、七二六八、死者九九万五七〇人、インド感染者四、三二二万一、五九九九、死者五二万四、二一四九、ブラジル感染者三、〇六八万二、〇九四九、死者六六万五、一〇四九、フランス感染者二、九三五万二、二九〇人、死者一四万八、三〇六六、ドイツ感染者二、五七二万九、〇四八八、死者一三万七、四九九九、英国感染者二、二二六万二、二〇四八、死者一七万七、九〇四八、ロシア感染者一、七九八万人、死者三六万九、九六一人で、ちなみに、我が国日本は感染者八三三万四、八五九八、死者三万三六八（五月十五日付朝日新聞）となっています。コロナ患者が大勢出ているコロナ禍以前の生活に戻した国が出てきたり、中国のように患者が出た都市を完全に封鎖する国、北朝鮮はこれまでに患者は皆無だと言っていたのに四月末頃からコロナ患者らしき発熱者が爆発的に増えてきたと言いき、国民に向けては塩水でうがいをし、ヤナギの葉を煎じて飲めばよいとする国など様々な対応がなされています。ロシアにいたっては患者数、死者数ともに多いのにウクライナに戦争を仕掛けてゆくのですから……。国外に避難するウクライナの人たち、女性と子供たちの映像、ミサイル等で破壊された街中の家屋の写真、こうしたものを見るたびに心が締め付けられる思いです。

このコロナ禍の三年、歓送迎会をはじめ花見や暑気払い、芋炊き、忘年会・新年会、各種お慶び、地域・町内会等の行事に伴う、いわゆる飲み会がほとんど中止となり、「呑み助」が寂しい思いをしています。会うたびにマスクに手を置きながら「飲みながら話したい」という友人、大学の「御幸寮」の元寮生は「寮生大会」と称する懇親会を開いてほしい、等々、仲間が集まってワイワイガヤガヤの場を求めています。もう少しでコロナ禍は収束する（してほしい）と思います。どうぞ会員の皆様におかれましてはお元気にコロナ禍をやり過ごしていただき、同期会や課程、教科、専攻の、そして指導教官・補導教官を囲む会や親睦会・懇親会等を開催し、その報告をこの同窓会紙に寄せていただければと思います。なにか、次の「第十九回同窓会懇親会」は二年先の令和六年（二〇二四年）八月開催予定ですので。皆様のご健康とご多幸をお祈りしています。今後とも教育学部同窓会の運営にご協力ください。よろしくお祈りします。

「NIEについて」
社会科教育講座教授 鴛原 進

「障がいのある人たちの『働きたい』『働き続けたい』思いの実現に向けて」
愛媛大学教育学部同窓会
事務局 阿部 修一

「祈る」…………… 中岡 絃子
題字 元愛大教育学部教授 菊川 國夫

「コロナ禍の三年目」…………… (1)
教育学部同窓会会長 高橋 治郎

心 響…………… (2)

研究室紹介…………… (3)
教育学部体育科教育学准教授 糸岡 夕里 研究室

職場たより…………… (5)
教員一年目を終えて 四国中央市・川之江南中教諭 河野 佑太

これまでを振り返って 新居浜市・高津小教諭 曾田 雄太

これまでの教員生活を振り返って 西条市・周布小教諭 杉野 喬史

自分探し 今治市・立花中教諭 大瀨 祐子

学校は子どもと私のホームグラウンド 松山市・三津浜小教諭 青野 輝那

• ありがとうございます 伊方町・三崎小教諭 松下 智和

教育実践…………… (11)

目次

表紙

障がいのある人たちの「働きたい」「働き続けたい」思いの実現に向けて

愛媛大学教育学部同窓会 事務局

阿部 修一

(昭五二卒)

私が初めて知的に障がいのある人たちの就労に関わったのは教員になって六年目の昭和五十七年でした。以来、今日まで約四十六年間卒業生の就労と就労継続支援に携わってきました。こうした多くの事例に関わる中で彼らの「働きたい」「働き続けたい」という思いを実現するためには本人は何を身に付け、支援者及び企業は何を配慮すべきなのか、あるいは彼らの思いを阻害している要因についてまとめ、現在の指導支援に活かしています。

【基本行動を大切に】

よく保護者や先生から「就労するためには何を身に付けさせておけばいいの」と聞かれます。昨今キャリア教育が進み、先生方はすでに実践していることと思いますが、どの企業関係者も言われているのが、「仕事は会社で教えるから家庭や学校では挨拶・返事・生活リズム等当たり前のことをしっかりと身に付けさせて欲しい」ということです。当たり前のこととは、能力・障がいに関係なく誰もが社会生活を送る上で身に付けておかなければならない行動、つまり「基本行動」のことです。この基本行動が身に付けば生活意欲が高まりそして働く意欲、働く力につながり、生活の質の向上につ

ながるのです。

【自分の良さ(強さ)を知る】

次に大切なことは、障がいのある人の「自分の良さ・得意とすること(強さ)や欠点(苦手なこと)(弱さ)」を知る学習の場を取り入れることです。人によっては細かい仕事得意であったり、人と話すことが苦手であったりと強さ弱さは違っています。この強さを伸ばすことは自信につながり主体的・積極的な行動にもつながります。そして、進路決定の際はこの強さを活かす職種を選ぶことがその後就労継続に大きく影響してきます。雇ってくれるからと安易に自分の強さが活かされない企業に就職し、自信のない不安な状態で就労生活を続けているとやがて働く意欲が減退し、離職につながってしまいます。また、この「自分を知る学習」は自身の障がい受容にもつながる重要な学習の場でもあるのです。

【支援に対する意識を変える】

障がいのある人の中には、障がいの受容ができていないことから「なんで私が」と支援を受けるのを拒む人が多くいます。必要なのは「支援は受けていいもの、受けるもの」、つまり「苦手(弱さ)なところは支援を受ける」という考えをもつことなのです。



学校や家庭では障がいのある人が困っていると教師や保護者が気づき、関わってくれますが、職場にはそこまで求めることはできません。職場の人は自分の職務を遂行するので手一杯なのです。でも、彼らが支援を求めれば必ず手をさしのべてくれます。大切なのは、困った時に自分から支援を求められる力を身に付けることなのです。

【行動の原因を探る】

障がいのある人が起こす行動には必ず原因があります。授業が始まるとすぐ席を立ち動き始める児童生徒、先日まで確実にできていた仕事にミスが頻繁に起こる就労者等の場合、教師や企業責任者から見ると彼ら自身に原因があるととらえがちです。こうした時に「何故? 何で?」と疑問をもち視点を変えて見直すと、原因が教室環境にあったり、指示や教材の問題であったり、知らないうちに同僚の過剰な支援や余計な支援が入っていて手順が混乱していたりと彼らの困り感が分かることがあります。支援者が彼らの根本的な課題に気づかないまま関わっていると、結局彼らは言われていることが理解できないまま同じことを繰り返すことになり、「言っても聞かない子」「仕事ができない社員」といった評価になります。「何でだろう?」と視点を変えて検討できる支援者になって欲しいものです。

【特性に応じた支援・対応を】

障がいのある人たちの一人ひとりの特性は違ってきます。Aさんに通用した支援もBさんには通用しないことは多々あります。つまり、障がいのある人たちの人数分

支援方法があるとと言っても過言ではないのです。例えば情報処理(認知処理)の仕方について考えれば彼らの認知処理の仕方には二通りあります。一つずつ系列的・時間的に処理するタイプと複数のことを全体的にとらえ、空間的に処理するタイプがあります。当然支援の方法が違ってきます。前者には段階的で部分から全体へと順序性をふまえた支援、後者には全体的にふまえた支援が必要で、この特性が分からないまま違った支援を続けると彼らはとまどい、混乱してしまいます。また、彼らの多くはワーキングメモリーが弱いという課題があります。ワーキングメモリーが弱いと記憶が苦手であったり、整理が苦手であったり、記憶の削除が苦手であったりといった特性が表れ、必要なことを忘れやすいだとか場違いな言動が多いとか行動の切り替えや連続的な会話が難しいといった特性がでます。このような一人ひとりの特性をしっかりと把握し、それぞれにあった支援を構築していくことが彼らの就労自立にとって大切だと考えています。

現在障がい者理解が進み、厚労省が発表した令和三年の雇用状況は約六十万に近くになり、十八年連続で雇用障がい者数は過去最大を記録しています。大変喜ばしいことですが、実際の就労現場では課題が山積しているのが現状です。私も今年で古希を迎えますが、身体が動く限りライフワークである障がいのある人たちの就労及び就労継続支援に関わっていきたいと思っています。

支援方法があるとと言っても過言ではないのです。例えば情報処理(認知処理)の仕方について考えれば彼らの認知処理の仕方には二通りあります。一つずつ系列的・時間的に処理するタイプと複数のことを全体的にとらえ、空間的に処理するタイプがあります。当然支援の方法が違ってきます。前者には段階的で部分から全体へと順序性をふまえた支援、後者には全体的にふまえた支援が必要で、この特性が分からないまま違った支援を続けると彼らはとまどい、混乱してしまいます。また、彼らの多くはワーキングメモリーが弱いという課題があります。ワーキングメモリーが弱いと記憶が苦手であったり、整理が苦手であったり、記憶の削除が苦手であったりといった特性が表れ、必要なことを忘れやすいだとか場違いな言動が多いとか行動の切り替えや連続的な会話が難しいといった特性がでます。このような一人ひとりの特性をしっかりと把握し、それぞれにあった支援を構築していくことが彼らの就労自立にとって大切だと考えています。

Table listing various items and their page numbers, including '学部トピックス', '「章光堂」築百周年記念行事を教育学部附属中学校で実施しました', '部活動紹介', '愛媛大学合唱団 先輩を偲ぶ', '「あしあと(7)」先輩たちのあしあと', '会員の声', '身近な歴史を正しく伝えましょうI', '私を抱いてくれた人は戦死した', '英訳「教行信証」', 'Mark L. Blum 博士', '序文の残り', '放送大学・ミュージアム案内', '同窓会支部長会報告', '役員表', '事業・決算報告', '同窓会会則', '支部活動支援金交付要綱', '同窓会事務局からのお知らせ', '表紙作品「祈る」について', '敬弔・寄付者名', '裏表紙'.



研究室紹介

愛媛大学教育学部

体育科教育学



准教授 糸岡 夕里 先生

目標達成へ向けての効果的な授業である 「よい体育授業」とは？

体育授業を創る楽しさと体育授業を実践する楽しさ

・研究の概要

私の専門は、よい体育授業を目標とした研究（授業研究）や、よい体育授業を実践できる教員をどのようにに養成したらよいのかといった研究（教師教育研究）になります。ここでは「よい体育授業（目標達成へ向けての効果的な授業）」という言葉を使いましたが、「よ

い体育授業＝楽しい体育授業」と

言い換えることができます。これ

までの研究から、子供が楽しかつ

たと満足している体育授業がよい

体育授業だということが明らかに

されてきました。それは単に主観

的に授業の善し悪しを判断するの

ではなく、実践した授業を客観的

な分析に基づき評価し、その結果

から授業の有効性を判断し、よりよい授業へ向けて修正を加えること、さらには実践した授業の教師行動も同様に客観的な分析に基づき評価し、教師の指導技術を改善していくといったプロセスの結果です。これら一連のプロセスを繰り返すことにより、誰もが楽しめる体育授業を目指しています。

そして、楽しい体育授業を実践できるように大学での授業（カリキュラム）はどうあるべきなのか、ここでも客観的な分析に基づき、教員免許はどこでも取得できるけれど、より高い力量を身に付けることができるのは愛媛大学であると評価されることを目指しています。

・研究の特色

研究を進めるにあたっては学校現場とのつながりが必要不可欠となりますが、学校現場での授業実践や授業参観の協力を得ることができており、とても恵まれた環境

にあるといえます。また一方で、教育委員会や学校現場から、指導助言者や実技指導講師として依頼を受けることもあります。

学校現場の授業を参観したり、先生方と一緒に授業づくりをしたりすることを通して、子供たちの実態をふまえた今日の課題や先生方の悩みについて理解を深めたり、体育授業についての課題を洗い出したりすることができます。そして、そこから得られた知見を次の授業研究へと活かしたり、教員養成（学生教育）に還元したりすることができます。



授業参観の様子



指導助言の様子



学校現場の先生との授業づくりの様子

・研究の魅力

できなかったことができるようになったとき、子供に限らず大学生であつてもとてもイイ顔をします。それが子供であればなおさらです。ある子供はできたときに跳んで喜んだり、できるようになった友達のことを自分のことのように一緒に喜んだり、一方で、

勝敗のつくような場合には、負けたことを泣いて悔しがる子供もいます。そういった子供のリアルな感情に触れることができるのが体育授業です。そういった体育授業をよりよく改善していく作業はとても魅力的です。何より自分の考えた授業を受け、楽しそうに笑顔で取り組む子供たちの姿を目の当たりにできることは研究の醍醐味といえます。

また愛媛大学に着任し十年以上が経った近年では、学校現場で活躍する卒業生から連絡を受け、授業研究の助言をする機会も増えてきました。さらには、卒業生へ研究のための授業実践をお願いすることもできるようになりました。卒業生が先生として教壇に立ち、授業実践をお願いできるほど成長した姿を参観できることは、この上なく嬉しい瞬間ですし、卒業後もつながり続けることができることは幸せなことだと思っています。

・今後の展望

子供を取り巻く環境の変化により、運動経験の乏しさについては言わずもなれではありますが、新型コロナウイルスの影響でさらに加速したの担う役割は今後より一層大きくなりますし、幼児期の運動遊びについての注目度も高まっています。

私事になりますが、自分の子供がゴールデンエイジ（多様な動きを習得しやすい時期）にあたるため、どのように動きを習得しているのか、どのような動きにつまづき、どのような手立てで、どのように習得していくのか、その経験を研究に活かす、学校体育のみならず、幼児期の運動遊びの実践につなげていきたいと思っています。（鼻真目に見ても、我が子は運動ができる方ではなく、外遊びよりもゲームに夢中なので、研究対象としてとても魅力的な存在です……）

また、教科書のない体育授業では、先生の力量が子供の成果に大きく関係します。教科書がないということは、授業の自由度が広がることで魅力的であると同時に、創造性が求められるため授業が難しく一定の成果を上げることが困難ということと背中合わせです。今後は誰もが楽しめるような授業を創り、先生の得意不得意にかかわらず、子供が一定の成果を上げることができるようなデジタル教科書を作成していきたいと思っています。

・この研究を志望する方へのメッセージ

小学校の先生を目指す学生の中には、体育が苦手という学生も少なからずいます。私は、そんな学生たちへ「自分の苦手意識を大きなアドバンテージだと思って体育の授業づくりをしてみよう」といった話をします。体育が苦手な子供の理由は様々です。そ

の苦手を払拭できる体育授業を創ることができれば、間違いなくイ授業が実現できると思います。

当然、体育が得意な学生にとっても、「名選手、必ずしも名監督ならず」という有名な言葉があるように、自分がすることと教えることでは全く違います。よい体育授業の条件や指導法について理解を深めることができれば、もっともっと楽しめる授業を実現できると思います。

E 顔（えがお、いいかお）あふれる体育授業の実現を目指し、E H I M E 大学と一緒に探求してみませんか？

※ 糸岡先生の実践内容につきましては、愛媛大学のHPに掲載された内容に加筆をしていただき、掲載しております。

（教育学部同窓会事務局）



教材を紹介するための動画資料を作成する様子



コロナ禍で小学校とオンラインで体育授業を実践した様子



授業づくりについて学生と話し合う様子

職場だより



教員一年目を終えて



四国中央市
川之江南中教諭
河野 佑太
(令二卒)



れる幸せを伝えたい。」と考えるようになりまし。これが、私が教員を目指した理由です。

そして晴れて教員になることができました。赴任先は四国中央市に決まりました。「四国中央市ってどんな所なのだろう。」というのが第一印象です。右も左も分からない教員生活が、縁もゆかりもなかった土地で始まりまし。初

教員になりたいと思ったのは大

学生の頃です。当時の私はカナダへ語学留学中でした。カナダで様々な国の友人と英語で話し、多種多様な価値観に触れ、毎日が新しい発見の連続でした。そして、「英語で他国の人々と話す楽しさ

やすばらしさを一人でも多くの子どもたちに伝えたい。」と考えるようになりまし。同時に、様々な国の人と本音を語り合う経験から、ありのままの自分でいられる

幸せを感じまし。そして、自分の学生時代を思い返すと、「周りからどう思われているのだろう。」とか「周りから自分はどんなことを期待されているのだろう。」などを気にしすぎて、ありのままの自分でいることをすっかり忘れていたことに気付きました。この経験から「英語教育を通して、子どもたちにありのままの自分でいら

る幸せを伝えたい。」と考えるようになりまし。これが、私が教員を目指した理由です。

る幸せを伝えたい。」と考えるようになりまし。これが、私が教員を目指した理由です。

そして晴れて教員になることができました。赴任先は四国中央市に決まりました。「四国中央市ってどんな所なのだろう。」というのが第一印象です。右も左も分からない教員生活が、縁もゆかりもなかった土地で始まりまし。初

教員になりたいと思ったのは大

学生の頃です。当時の私はカナダへ語学留学中でした。カナダで様々な国の友人と英語で話し、多種多様な価値観に触れ、毎日が新しい発見の連続でした。そして、「英語で他国の人々と話す楽しさ

やすばらしさを一人でも多くの子どもたちに伝えたい。」と考えるようになりまし。同時に、様々な国の人と本音を語り合う経験から、ありのままの自分でいられる

幸せを感じまし。そして、自分の学生時代を思い返すと、「周りからどう思われているのだろう。」とか「周りから自分はどんなことを期待されているのだろう。」などを気にしすぎて、ありのままの自分でいることをすっかり忘れていたことに気付きました。この経験から「英語教育を通して、子どもたちにありのままの自分でいら

る幸せを伝えたい。」と考えるようになりまし。これが、私が教員を目指した理由です。

想像を超えるものでした。自分が生徒の時は「先生は授業の準備をして、部活動もして大変だな。」と考えていましたが、実際にはそれに加え、生徒からは見えない仕事を教員はたくさん抱えています。初めの頃はその仕事量の多さに圧倒され、余裕のない教員生活でした。生徒の前では明るく振舞おうと努力しましたが、生徒もどこか私の余裕のなさを感じていたと思います。「このままではいけない。」と強く感じまし。試行錯誤の中で私が行きついた答えは、「生徒のためになる仕事に全力を注ぐ」です。そのため、「今、自分が生徒のためにすべき仕事は何か。」と自分に問い、目の前にいる生徒のために最も力を注ぐべきことから優先順位を付けることが必要だと感じています。決して手を抜くというわけではありません。ただ、「今、取り組んでいる仕事や費やしている時間は本当に目の前の生徒のためになっているのか。」と自問自答を繰り返し、自分にできる最大限の努力を生徒のために行うことが、教員には求められるものであると考えています。

生徒のためにできることの中で、昨年度から自分が最も大切にしているのが同和問題学習です。私は教員になるまで、同和問題学習にあまり触れてきませんでした。どこか他人事のように考えて

いたのだと思います。しかし、それではいけないと教員になってから痛感まし。私の周りの先生方は、日々同和問題学習に向き合っています。だから私も同和問題学習の大切さや必然性に気付くことができました。本場に四国中央市に、川之江南中学校へ来る

ことができて良かったと思います。もしも、四国中央市に、川之江南中学校に赴任していなければ、私の人生は「差別を残す生き方」になっっていたかもしれまし。先ほども申し上げまし。私は周りに恵まれていると思います。周りには一緒に同和問題学習に向き合う先生方がおられ、自分の語りかけることに応えてくれる生徒がいます。初任者の頃からこれほど恵まれた環境で教員生活を送ることができると感謝しています。

話は同和問題学習に戻ります。あの先生のクラスの学級目標は「自分さえ良ければ……0」です。私はこの学級目標が意味するものが同和問題学習を支えるものであると感じています。「自分さえ良ければ……」のような思いがあると日本に残る差別の問題は決して解決しませ。自分と同じ国の中に、同じ町の中に、不条理な差別によつて苦しんでいる人がいます。では、それは誰の問題なのか。差別は、差別によつて苦しむ人がいるからなくならないのか。それは断じて違うと思います。差別を残

してしまっている私たちに責任があると思います。教員は生徒に「教える」ことが大きな仕事です。しかし、生徒から「学ぶ」ことも教員の大きな仕事だと感じまし。特に同和問題学習においては、私はこれまで差別をなくすことができなかつた立場です。決して生徒に一方的に教えられるものではなく、ませ。昨年度の同和問題学習を通じて、私は生徒から多くのことを学んできました。同和問題学習を通して、生徒から「学ぶ」大切さを学ばせてもらいました。

私は生徒に「人を想える人になる。」と伝え続けています。「想える心」を意味すると私は思っています。自分の発言や行動で相手はどんなことを感じるのか、前もつて自分の言動について考えたり、自分の言動を振り返ったりすることが、人を想うためには必要です。それは、決して生徒に限つた話ではありません。教員である私も、人のことを想える人であるための努力をすることが必要です。これから教員として生きていく上で、このことだけは決して忘れることなく、胸に留めておこうと思ひます。それが同和問題学習、ひいては人間力の根幹になると信じています。これからも、生徒のために尽くし、生徒と共に学ぶことのできる教員でありたいと思ひます。

私は生徒に「人を想える人になる。」と伝え続けています。「想える心」を意味すると私は思っています。自分の発言や行動で相手はどんなことを感じるのか、前もつて自分の言動について考えたり、自分の言動を振り返ったりすることが、人を想うためには必要です。それは、決して生徒に限つた話ではありません。教員である私も、人のことを想える人であるための努力をすることが必要です。これから教員として生きていく上で、このことだけは決して忘れることなく、胸に留めておこうと思ひます。それが同和問題学習、ひいては人間力の根幹になると信じています。これからも、生徒のために尽くし、生徒と共に学ぶことのできる教員でありたいと思ひます。

私は生徒に「人を想える人になる。」と伝え続けています。「想える心」を意味すると私は思っています。自分の発言や行動で相手はどんなことを感じるのか、前もつて自分の言動について考えたり、自分の言動を振り返ったりすることが、人を想うためには必要です。それは、決して生徒に限つた話ではありません。教員である私も、人のことを想える人であるための努力をすることが必要です。これから教員として生きていく上で、このことだけは決して忘れることなく、胸に留めておこうと思ひます。それが同和問題学習、ひいては人間力の根幹になると信じています。これからも、生徒のために尽くし、生徒と共に学ぶことのできる教員でありたいと思ひます。

私は生徒に「人を想える人になる。」と伝え続けています。「想える心」を意味すると私は思っています。自分の発言や行動で相手はどんなことを感じるのか、前もつて自分の言動について考えたり、自分の言動を振り返ったりすることが、人を想うためには必要です。それは、決して生徒に限つた話ではありません。教員である私も、人のことを想える人であるための努力をすることが必要です。これから教員として生きていく上で、このことだけは決して忘れることなく、胸に留めておこうと思ひます。それが同和問題学習、ひいては人間力の根幹になると信じています。これからも、生徒のために尽くし、生徒と共に学ぶことのできる教員でありたいと思ひます。

私は生徒に「人を想える人になる。」と伝え続けています。「想える心」を意味すると私は思っています。自分の発言や行動で相手はどんなことを感じるのか、前もつて自分の言動について考えたり、自分の言動を振り返ったりすることが、人を想うためには必要です。それは、決して生徒に限つた話ではありません。教員である私も、人のことを想える人であるための努力をすることが必要です。これから教員として生きていく上で、このことだけは決して忘れることなく、胸に留めておこうと思ひます。それが同和問題学習、ひいては人間力の根幹になると信じています。これからも、生徒のために尽くし、生徒と共に学ぶことのできる教員でありたいと思ひます。

私は生徒に「人を想える人になる。」と伝え続けています。「想える心」を意味すると私は思っています。自分の発言や行動で相手はどんなことを感じるのか、前もつて自分の言動について考えたり、自分の言動を振り返ったりすることが、人を想うためには必要です。それは、決して生徒に限つた話ではありません。教員である私も、人のことを想える人であるための努力をすることが必要です。これから教員として生きていく上で、このことだけは決して忘れることなく、胸に留めておこうと思ひます。それが同和問題学習、ひいては人間力の根幹になると信じています。これからも、生徒のために尽くし、生徒と共に学ぶことのできる教員でありたいと思ひます。

私は生徒に「人を想える人になる。」と伝え続けています。「想える心」を意味すると私は思っています。自分の発言や行動で相手はどんなことを感じるのか、前もつて自分の言動について考えたり、自分の言動を振り返ったりすることが、人を想うためには必要です。それは、決して生徒に限つた話ではありません。教員である私も、人のことを想える人であるための努力をすることが必要です。これから教員として生きていく上で、このことだけは決して忘れることなく、胸に留めておこうと思ひます。それが同和問題学習、ひいては人間力の根幹になると信じています。これからも、生徒のために尽くし、生徒と共に学ぶことのできる教員でありたいと思ひます。

これまでを振り返って



新居浜市 高津小教諭 曾田 雄太 (令三卒)

高津小学校から教員生活が始まり、二回目の春を迎えた。大学を卒業後、それまで一、二回しか訪れたことのない新居浜市に赴任することになった。本校は海が近く眺めが良い。規模が大きく伝統もあり、水泳や陸上、合唱の活動も盛んである。期待や喜び、不安が入り混じった中で、高津小学校での教員生活が始まった。新年度がスタートすると、引越越し、着任、初めての職員会議、学級発表、新年度の準備、と怒涛の日々が過ぎ去り、気が付けば学級開きの日を迎えていた。

四年生三十一人を担任させていた。私には何だかわからないような状況で仕事をしていた。授業の進め方、板書の書き方、指示の出し方、整列の仕方、給食指導……、日々分からないことだらけで、休み時間の度に学年主任の先生のクラスに行き、分からないところを教えたいだいていた。

「先生！」「ごめん、今忙しいからあとで話を聞かぬ。」

嬉しそうに話しかけてくれる子どもたちに対して、私の心に余裕がないばかりに、何回悲しい思いをさせてしまっただろう。

休み時間は丸付け、授業準備、計画帳へのコメントなど、するべきことが多い。しかも分からないことばかりで、他のクラスの先生方に教えていただきに頻繁に教室を歩き来していた。心に余裕などなく、その当時の私は児童との何気ない雑談をおろそかにしていた。

そんな日々での初任者指導の先生との会話である。

「Aくん、スイミングで級位が上がったらいいね。」

「え、スイミングを習ってたんですか。知らなかったです。」

「BさんとCさん、喧嘩でもした？ いつも仲いいのに、元気がなかったね。」

「気づきませんでした……。」

その先生には週に一度、授業や学級経営について指導していただいている。しかし、毎日一緒に過ごしている私よりもよく子どもたちのことを理解されておられた。

このことをきつかけに、やっと私がどれだけ目の前の子どもをなやましていたかに気が付き恥ずかしくなった。

このままではいけない。そこから、先生にもアドバイスをいただくようにした。一つ目は、私の方から子どもに積極的に話し掛けに行

くことである。これなら自分の空いているタイミングで話ができるうえ、特定の子にも偏ることなくコミュニケーションをとることができる。二つ目は、「これは確認しておかないとその日に支障が出る」という事項は前もってしっかりと確認し、なるべく休み時間を持って準備をしたことである。こうしたこともあって、少しずつであるが子どもとの関わり方が分かるようになってきた。

二年目となった現在は、二年生三十二人を担任させていた。二年前のあのときの苦い経験を繰り返さないよう、どんなに忙しくても子どもから話し掛けられた時には、できるだけ手をとめて話を聞くよう心掛けていた。話し掛けに来る子どもたちを、歓迎して迎え入れることのできる心の余裕を常に持っていた。

● 褒めることと叱ること

大学生のころは「褒める」と「叱る」について深く考えたことなどなかった。子どもの望ましい部分は褒めたら伸びていくだろう、良くない部分は叱れば改善していくだろう、この程度にしか考えてなかった。しかし、現場に立って、この褒めると叱るが、いかに大切で、奥深いものか思い知った。

褒めるとはいつでも、適切な褒め方でないと、子どもがやる気を見せてくれるわけではない。タイミングや言葉の選択がとても重要である。子どもの心に響かないと頭を悩ませていた私は、これらのことが分かっていた。

また、叱ることは褒めること以上に気を遣わないと、すぐに子どもが離れていくのだと身をもって体感した。子どもが自身の悪かったことを自覚させることができなまま叱ると、子供の心には「叱られた」という事実しか残らず、納得などしてもらえない。伝え方も大事だし、叱った後はフォローをしなくてはならない。また、どうしても同じ子ばかりを叱るようになってしまい、「なんで俺ばかり」という思いを持たせてしまったこともある。

● 真似をするのは悪いことか

つい最近まで、他の先生の授業を覗きに行ったり、取組を真似したりすることは失礼だと考えていた。というのも、教育実習では、授業を参観するときは前もって挨拶に行かなければならず、突然教室に行き、授業を見ることは失礼に当たると教わったからだ。そうした経験から、一年目は分からないことは休み時間にまとめて先生方に聞いて、授業中に急に他の教室に行かないようにしていた。授業を見せていただくときは事前に許可をいただくことを徹底していた。

二年目のある日、二年生に野菜の観察カードを書かせていたとき、学年主任の先生から、「○○先生がどういう指導をされているか覗きに行つたほうがいいよ。」と、同じ学年のベテランの先生のクラスへ勉強に連れて行っていた。

だった。放課後、「突然お邪魔して失礼ではなかったですか。」と聞くと、「全然。むしろどんどん見に行つて、良いところは真似して勉強したほうがいい。」と言っていた。見に行つて真似してもいいのかわからない。そのことがあったから、少しでも気になることがあったときは、他の先生方がどのように指導されているかをよくよく見に行くようにしている。すると、板書の構成、授業の進め方、使っている教具など、勉強になることはばかりであり、良いと感じたことはすぐに真似させていた。今まで見に行けなかった分、どんどん見に行つて学ばせていただきた。

教師の仕事は大変なことも多い。学校にいる時間も長い。しかし、無邪気な子どもたちと関わることは楽しい。なにより子どもの成長を間近で見られることは大きなやりがいである。まだまだ未熟であるが、先輩の先生方に教えを乞いながら、子どもたちと共に成長していける教師でありたい。



これまでの教員生活を振り返って



西条市 周布小教諭
杉野 喬史
(平二九卒)

私は講師の年数を含めると、今年で教員生活六年目となります。順風満帆とはいかないこの五年間でしたが、今はとても楽しく、充実した毎日を送ることができています。この度、良い機会をいただきましたので、教師を目指すきっかけから現在までの教員生活を振り返り、考えたことを書きまとめたいと思います。

私自身は、小学生の頃から、あまり人前で話すことや何かを披露することが得意ではなく、静かに過ごすことが好きでした。でも、運動はとても好きで、放課後の水泳、陸上、マラソン練習に全力で取り組みました。その時に、体育の先生方に熱心に指導していただき、今でも感謝の気持ちを持っています。そして、「先生ってすごいな」と思ったことが、私が教師を目指す最初のきっかけとなりました。

高校を卒業し、子どもが大好きだからという漠然とした理由で愛媛大学教育学部に入學しました。そして、三回生の時に教育実習に臨みました。私は二年生の学級で、子どもたちと一緒にとても楽しく過ごすことができました。一方で、生活科の研究授業者となり、授業の難しさを痛感しました。準備も

大変でしたが、何より子どもたちから出る、様々な意見をまとめることが何よりも難しかったです。この経験から、教師という仕事の楽しさや大変さ、難しさを知りました。

四回生で受けた教員採用試験には不合格で、自分は教師に向いていないのではないかと考え、すぐく悩んだ時期もありました。それでも、大学卒業後は、講師として小学校で勤務することを決めました。

教員生活一年目は、二年生の学級担任となりました。自分は何が分かっていないのかも分からないような状態で、新学期をスタートさせました。元氣いっぱいの子生を相手に、毎日一生懸命頑張りましたが、うまくいかないことも多く、悩むことも増えていきました。そんな時、周りの先生方が本心に優しく声を掛けてくださったたり、アドバイスをくださったたり、ご飯に行つて話を聞いてくださったたりして、少しずつ学校生活に慣れていくことができました。それでも、この一年間はいろんな失敗もあり、今でも子どもたちには申し訳なかったなと思つています。それと同時に、子どもたちにはとても感謝しています。この一年間の様々な経験が、教師としての自分を成長させてくれたからです。大変な一年間でしたが、これまでの自分の人生において、最も大切な一年間となりました。

二年目は、全校児童数が五十一年で、複式学級もあるような、小さな小学校に異動となりました。十三人の三年生の学級担任となつたのですが、一年目に経験したこととを生かし、ある程度の見通しを持って仕事に取り組みしました。すると、一年目に苦労していたこと

はほとんどなくなり、子どもたちと一緒に楽しく一年間を過ごすことができました。また、周りの先生方に授業案の作成や授業準備を支えていただくことで、遠隔による大きな研究授業もはじめて経験しました。二年目は、大きな達成感を得ることができた一年間になりました。

教員生活三年目は、無事に教員採用試験に合格し、新規採用教員として、新たな小学校での勤務となりました。新規採用ということ、初任者指導の先生が毎週一日、学校へ来て指導して下さることになりました。これまでの自分の指導方法を認めてくださりながら、それをブラッシュアップするような形で、様々なことを教えていただきました。そしてこの方は、長年、道徳や人権に関する研究に努めておられ、講演会などにも取り組まれた、プロフェッショナルな方でした。この年、人権に関する道徳の研究授業を担当することとなり、同じ低学年の先生に協力していただきながら、授業案を作成していきました。しかし、授業のねらいや授業展開などで悩み、初任者指導の先生に相談をしました。すると、教師が児童にどんなことを気付かせたり、考えたりさせたいか、その核さえあればどんな授業展開でも大丈夫だと教えてくれました。そして、その話の最後に、

「この授業で全部をやる必要はないんだよ。先生が一生懸命やっていたら、子どもは自分たちで自然と成長していくものだからね。」と言ってくれました。この言葉は、私の肩の荷を下ろしてくれらるとともに、これから先もずっと大切にしていきたい言葉となりました。

教員生活四年目は、初の体育主任となりました。元々人前で話したり、何かをしたりする得意ではなかったもので、決まった時はすごく不安でした。幸い、前体育主任の先生がいてくれたので、分からないことは聞いたり、アドバイスをいただいたりして、体育行事を進めていきました。今までは、自分が先頭に立つて物事を進めていく経験があまりなかったもので、大変ではありましたが、体育主任としての仕事をこなしていくことで、人として成長することができた一年でした。

教員生活五年目、新規採用から勤務していた小学校での、最後の年となりました。三年生十三人の担任というところで、二年目の頃を思い出し、感慨深かったです。前年に体育主任に加え、情報教育主任も担当していたこともあり、タブレット学習に力を入れて進めていきました。三年生の吸収力はすさまじく、タイピングはもろろん、プレゼンテーションを使つての発表もお手のものとなりました。そしてこの年、社会科教科研修会の授業を担当し、タブレットを活用した授業に臨みました。授業では、子どもたちはタブレットを上手に活用しながら、自分の言葉で友達に発表できました。この経験から、今後の学校教育では、アナログとデジタルの両方のよさを、うまく生かしていく重要性を感じました。

最後に、これからの教員生活で、自分が大切にしていきたいことを二つ書き記そうと思います。一つ目は、子どもの頑張りを認め、たくさん褒めることです。一年目や二年目の頃は、自分の技量不足で必要以上に子どもを叱ることが多かったです。しかし、最近

は子どもの様子を見て、いいところを見付けて褒めるように努めています。そうすることで、子どもの自己有用感が高まり、学級でもみんなの笑顔が多くなったように思います。

二つ目は、休み時間に子どもとたくさん関わることです。これは一年目から現在まで、自分の中で大切にして、ずっと続けてきていることでもあります。休み時間には外でたくさん子どもと遊んだり、できるだけいろいろなことを話したりするようにしています。私自身が子どもと遊んだり話したりするのが好きというところもありますが、子どもも同様に教師と関わるのが好きな子が多いと思います。教師として働く限り、続けていこうと考えています。

今年も勤務校も変わり、二年生の担任となりました。一年目に二年生の担任をしたのが懐かしいなと思う年数になりましたが、これからも教師としてもっと成長できるように、研修に励んでいきます。



自分探し



今治市 立花中教諭 大濱 祐子 (平二二卒)



教育学部の卒業ではありませんが、音楽科の教師を志したのは卒業してからのことです。私は教師にはならない、と考えたこともありません。まさか、学校で人を前にして話をする立場になるなんて……。

事で「自分探し」をしていると感じることがあります。

講師として働き始めた時、授業を一人前にすることや生徒に指示を通すにはどうしたらいいのか悩み、自分の授業を生徒に見られているのがそもそも恥ずかしくて、自信のない自分をいかに強がって隠すかに徹していたと思います。他の先生の指導を見よう見まねでやってみても、違和感がありました。生徒と同じ目線で喧嘩をしたこともありません。長い時間をかけて学んだことは、「私」を生かしたものでなければ、説得力は生まれないということです。強い言葉や態度で、自分を恐い先生だと思わせることは全く重要ではないことを知りました。

現在の私が重きを置いていることは、この人の話だった。素直に耳を傾けてみようと思われるような人であることです。相手が自分のことを分かってくれる人なのか、自分の言葉を聞いてくれる人なのか、安心して話ができる人なのか、これらが子どもたちにとっては大切で、むしろ、私自身もそういう相手にしか自分のことを話しません。「謙虚」という言葉や意味を小学校五年生の時の担任の先生が最初の学級活動で教えてくださいました。中学生では親や先生方にわがままを言って失礼な態度をとりました。今でも記憶に残っているのは中学校三年生の時、部活動の顧問から指導を受け、突き放されたことがありました。やけになっていた私を仲間が引き止め、もう一度先生の所へ行つて謝るよう勧めてくれました。友達

の言うことなら、と職員室へ行き、先生と話をしました。先生の「気持ちには分かる。」の一言で、頭の中にあった怒りが引き、落ち着いて話を傾けることができました。頭の中にあつた怒りは、思春期の稚拙でわがままな苛立ちと、先生の怒りを私もコピーしてしまっていたことが影響していたと考えます。このように、この職に就いて昔の体験を思い出すことが多々あります。今は、自分が相手にとつて心を開ける存在でありたいと思うようになりました。

教師になつてから学んだことで印象深いのは、前にどんな人が立つたかによつて集団は良くも悪くも変わることを、また、目の前の人のことを子どもは良くも悪くも真似すること。これらのことについては先輩の先生が言葉で教えてくださいましたし、子どもたちとの関わりの中でもよく理解できました。ただ、子どもたちの手本でなければならぬ、良い人間でなければならぬという意識から自分を解放し、私は私らしく生きることを前提に子どもたちと関わることを望んでいます。それなのに、最近よく考えることは、私はどんな人間なのだろうかということ。相手のことを理解し受け入れようという意識は強くあつても、自分のことを私はよく分かつていないのだと思います。一人一人の個性や生き方を尊重し、互いを認め合う社会にしていけることが至る所で叫ばれていて、これについて考えることは学校でも取り組んでいます。比べることは差別や偏見を生むこともあります。何かと

比べなければ位置や性格を知ることとはできません。生まれてから価値観を獲得し、「普通」という基準がなければ良し悪しは判断されないのではないかと私は考えます。一人で居ることが寂しく不安な時もある、一人で居ることに安らぎを感じる時もあり、誰もがいつも同じ心境ではありません。しかし、変わらない本質というのもしやほりあるように思います。この職に就き、長い時間をかけて子どもたちに採まれる中で「自分とは何か」に関心を持つところまでやつと来れたのだからと思えます。

です。

教師になつた当初は出来ないことや上手くやれないことに悩んでいて、そればかりで頭の中がいっぱいでした。今も悩みや上手くやれないことは多々ありますが、同時に考えたり感じたりすることは増えたと思います。少しだけ余裕があるのかもしれない。子どもたちとの学校生活は面白く、授業内でもその他の場面でも好奇心がそそられることばかりです。こう感じるのはこの職に就いた時から変わりにません。最近では、自分の学級に行くことと癒されると感じる経験もありました。不思議な感覚です。学校という所は、自分に向き合わされることばかりです。知恵の付きすぎた自分を嫌に思うこともありません。そして自分を理解することはなかなか難しいのだということ。これを噛み締めて、当初のかわいい動機も忘れず、今日も子どもたちとの関わりで自分探しをします。世阿弥著の風姿花伝に「型から入つて型から出でよ」という言葉があります。七百年前の能の指導書ではありますが、考え方はちつとも古くありません。基本を学んだら、その型から出て自分らしく表現せよということ。じわじわと、私も型から出ようとして始めているのかもしれない。



学校は子どもと私の

ホームグラウンド



松山市
三津浜小教諭
青野 輝那
(令二卒)

「先生の名前は、青野輝那です。一年間よろしくね。」

昨年の四月八日、子どもたちの前で声を震わせながら自己紹介をし、教員生活のスタートラインに立った日のことを、私は今でもはつきり覚えています。

野忽那島で生まれ松山市内の小中学校を卒業し松山東高校に入學、高校時代は野球部のマネージャー業に一生懸命で勉強は後回しでした。案の定志望大学には受からず、一年間の浪人生活を経て、愛媛大学に入學しました。他県の大学も考えていましたが、「愛媛の教員になる」という夢を叶えるべく、愛媛大学の教育学部で特別支援教育を専門的に学びました。

三回生では附属小学校と聾学校での教育実習を経験し、どの校種の教員になるか悩みました。自分の力を最大限に生かしながら働くことができる場所は小学校教員だと決心し、小学校の教員採用試験を受けることに決めました。

大学生活においても硬式野球部のマネージャーとして活動していた私は、周りの友達が教採に向けて勉強をスタートさせても高校時代ののように部活動に一生懸命取り組んでいました。そんな中、新型

コロナウイルス感染症が流行し、最後の大きな目標である春季リーグ戦の全国大会、その権利を得るための四国六大学野球リーグ戦も中止となり、私たちの大学野球は不完全燃焼となりました。

試験まで残り時間は三か月程度と焦りがあり、また、もやもやしたままに試験勉強へシフトチェンジすることとなったため、なかなか本腰を入れて勉強とはなりません。コロナ禍だったため同じ教員を目指す仲間と一緒に大学で勉強することが難しく、孤独な闘いを強いられるなど、思うようにいかないことばかりでした。一日中家で何となく勉強をするという日々が続き、このままじゃいけないと思いつつも時間だけが過ぎていきました。

ある日の面接練習で「なぜ教師になりたいの？」と大学の先生から聞かれた時、明確な意思を答えることができませんでした。家に帰ってから「何で教師を目指したのか」「きっかけは何だったのか」などと自問自答して何だっただけのままではいけないと思うようになり、自分に喝を入れ三か月間必死で勉強に励みました。友達とは、オンラインで繋いだり携帯のビデオ通話を使ったりしながら、互いに鼓舞し合いました。

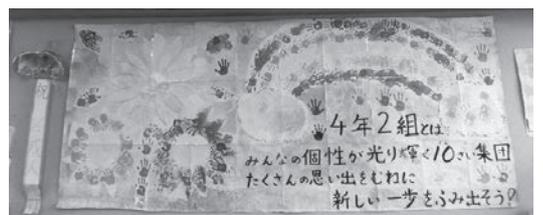
試験では自分のもてる力を出すことができ、一次試験に合格し、その後二次試験に向けた小論文と面接練習に励みました。当日の面接では自分自身の思いをありのままに伝えることができました。そして、合格通知をいただくことができた時、大学時代共に夢に向かって頑張ってきた仲間、支えてくださった先生方に、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

昨年、初任者として初めて担任をしたクラスは四年二組でした。思い返すと、十九人の子ともたちとたくさん遊び、たくさん悩み、たくさんすることにチャレンジした一年間だったと思います。

元氣と体力だけが取り柄といえる私は、休み時間にできる限り子どもたちと運動場で遊ぶことにしました。鬼ごっこをすれば全員に狙われる、というハードなことも多かったですが、「楽しい！」という気持ちを子どもたちと共有することで、少しずつ関係を築くことができました。一学期からは、クラス全員で8の字ジャンプにも取り組まれました。愛媛の小学生と記録を競う「えひめ子どもスポーティスタジアム」に参加し、子どもたちと上位を目指して練習に励みました。最初は四分間で六〇回しか跳べませんでした。毎日練習を重ねる中で、子どもたち同士が入るタイミングを教え合ったり、動画を見て動きを確認したりする姿が見られるようになり、自分の短い休み時間でも長縄のことに考えたり、年越し前に目標を達成したい、と終業式の帰りの会に記録を計ったりするなど、8の字ジャンプを通して子どもたちとのたくさんのおい出ができました。

最終的には四分間で三〇三回まで記録を伸ばすことができ、愛媛県で三十位と健闘しました。クラス全員が強い思いをもって同じ目標へ挑み続けた時間は、子どもたち一人一人だけでなく、私自身が成長できた出来事の一つとなり、教師一年目の大切な思い出となりました。

さらにもう一つ、子どもたちと挑戦したことがあります。それは、自主的に考え実行しようとする子どもたちのパワーは、とてつもなく大きなものであることを間近で感じ、どんなに準備が大変でも「子どもの願いを叶える」ということは、教師の大きな役割の一つであることを肌で感じました。また、「最高の思い出になった！」という子どもたちの言葉から、すでに十分な時間を作ることができてよ



け止め、共にチャレンジしました。一つ目は、アイデアを出し合っただけで、画用紙三十枚を教室の床に並べ、下描きから色塗りまでやりきった巨大アートです。二つ目は、クラスで愛されたマスコットキャラクターに一人一人の特徴を入れたパズル作りです。「十年後の成人式の時にみんなで作っていきましょう」と二十等分しました。三つ目は、子どもたちだけの力で作ったくす玉です。割った時は歓声があがり、みんな大はしゃぎでした。子どもたち全員が自主的に取り組んだことを形にできた時間でした。

「二分の一人成人式記念」として取り組んだ「巨大アート、くす玉制作」です。コロナ禍で学年行事ができず、クラスごとでイベントをすることになったため、子どもたちが受けることを受け止めたことを受

かったな、と思いました。その瞬間にしか見ることができない子どもたちの表情をどれだけ引き出すことができるか、ということも教師の力量であると同時に喜びであると実感しました。

「先生の名前は、青野輝那です。一年間よろしくね。」特別な思いをもって過ごした初任者としての一年間を経て、今年度は三年一組の担任として新たなスタートを切りました。一年前とは違い、少し気持ちに余裕をもって子どもたちとの出会いの時間を過ごすことができました。昨年は学年二クラスだったため学年主任の先生に助けて頂きながら奮闘していましたが、今年度からは学年単級となり、学級のことだけでなく学年のことも一人で担うことになりました。また、校務分掌も増え、学校全体に関わる仕事も担当するようになるなど、昨年度とは違う毎日を送っています。しかし、休み時間に外で子どもたちと鬼ごっこをすることで、子どもたちの思いに寄り添う気持ちは変わっていません。環境や求められ

分の中で「変えないこと」も大切にしていきたいと思っています。まだ始まったばかりの教員生活ですが、これから何年、何十年経っても子どもたちと共に悩み、楽しさを共有し、たくさんの方にチャレンジする教員であり続けたいと思います。教え子にもなった「てるな先生でよかった」「先生みたいな先生になります」という言葉に恥じないように、これからも「先生あのおね」という子どもたちの声を大切に、愛情をもって目の前の子どもたちと過ごしていきたいと思っています。

ありがとうございます



伊方町 三崎小教諭 松下 智和 (平一五卒)



教員生活も二十年目を迎え、これまでたくさん経験を積ませていただきました。まずはこうして同窓会の原稿執筆の依頼をいただき、ありがとうございます。このよく使うフレーズ「ありがとうございます」は、教員生活に限らず、全ての生活において多用しています。「ありがとうございます」を言われると、気持ち悪くなる人は少ないでしょう。人間関係の潤滑油のようなこのフレーズを、今後多用するつもりです。

さて、愛媛大学教育学部を卒業してから、節目の二十年目を迎えました。この紙面上をお借りして、今までの出会いに感謝を述べたいと思います。まずは、社会人一年目。東宇和郡野村町(現西予市)の野村小学校に活動指導員として採用していただき、四年生の副担任もさせていただきました。大学を出たばかりで、子どもたちや学級担任の先生には大変ご迷惑をおかけしたと思います。こんな私を受け入れていただいた皆様に、今更ながらありがとうございます。教育実

習とは違った生の現場を体感し、全てが初めてだらけであり、おそらく色々な方々に御迷惑をおかけしながらも楽しい日々を過ごすことができました。教員生活の原点を作っていたいただきありがとうございます。

愛媛県の新規採用職員として、新しいスタートを切った平成十六年。城辺町立城辺小学校(現愛南町)では、三年間お世話になりました。初めて赴任地を知らされた時、今ひとつ場所がぴんときていない私に「大丈夫、城辺には〇〇(スパーの名前)があるから生活できる」と教えていただいた先生、心配を取り除いていただきありがとうございます。この初任者として過ごした三年間は、特にありがとうございますと言った回数が多かったように思います。初任者指導をしていただいたM先生、また、当時城辺小学校で一緒に仕事をさせていただいた校長先生をはじめ諸先生方、本当您に指導ありがとうございます。当時指導していただいた図工でのクロッキーや多色刷り版画の指導や、体育の指導法などは、現在にも大変役立つております。ありがとうございます。

この初任者として過ごした城辺では、学校の授業の他にもたくさんあります。まずは、自然とのふれあいの楽しさを教えて頂いたこと。自然豊かな愛南町に流れる僧都川において、当時の校長先生からカニの獲り方やアユの取り方を見せ

て頂いたり、その調理法を教えてくださいました。特にカニ汁を作る作業は私にも手伝わせていただき、今でも鮮明に覚えています。料理やお酒を囲んで楽しい時間を作っていただきありがとうございます。豊かな自然、そこに生きる生き物たちにもありがとうございます。

次に、放課後の陸上練習も思い出深い一つです。体育主任一年生としてのデビューを果たし、様子も分からないまま「県のトップをめざそう」と無謀な目標を立てたものでした。甘くない目標を立てましたが、男女とも四百メートルリレーにおいて県二位という結果を残してくれた選手の皆様本当にありがとうございます。そして、男女ともにわずか〇・一秒差という勝負の厳しさを教えてくれた勝負の神様、ありがとうございます。もしそこで目標を達成してしまっていたら、その後の悔しさをバネとしての成長はなかったかもしれません。プラスに考えありがとうございます。

そしてもう一つ、課外体育としてスポーツ少年団活動に協力できたことも良い思い出です。ミニバスケットボールの活動を通じて、学校内で見ることのできない子どもたちの頑張りが見られたり、地域の方々や他チームの指導者とのつながりが広がったりと、大変貴重な時間を過ごさせていただきました。現在はチームの指導はしていませんが、南予のミニバスケットボールには審判員としても参加

させていただく機会もあります。このような長きに渡るつながりの場に出会えたことにも、ありがとうございます。

こうして振り返ってみると、教員生活のごく初期の段階で、自分の基礎を築いていただき、成長させていただいたことに気が付きます。不易と流行という言葉が教わったことがあります。卒業から二十年を迎えようとする自分自身の、不易の部分はここらまでにおおよそ教えていただいたのではないのでしょうか。思い出深い愛南町での関わりに、改めてありがとうございます。

さて、その後はと言いますと、自分の出身地でもある西宇和郡伊方町内の学校での勤務が続き、現在に至ります。今年度で教職経験二十年目となりますが、主に小学校、そして四年間の中学校勤務も経験させていただきました。

中学校での勤務では、中学校での教科指導や学級担任、またバスケットや野球での部活動顧問と、それまでになかった経験も積むことができました。ひよつとしたらこの紙面を御覧になられている方にもお世話になったかもしれせん。たくさんつながりを増やしていただき、ありがとうございます。

また、現在勤める伊方町は学校数も少なく、私のような力不足のものであっても、様々な役割をいただくこともあります。その中でも、特に多面において関わりを持つ機会が多かったのが、小体連

と中体連においての郡理事長です。小学校での理事長も今年度で二度目、中学校での理事長は慣れない面もあり御迷惑をおかけしたことも多かったのではないかと思います。伊方町に勤務しながら、県内各地の先生方と知り合い、交流を深めることができ、貴重な役割を与えて頂いたと感謝しています。支えて頂いた先生方にはとても感謝しています。ありがとうございます。

今回このような場を与えて頂いたことにより、忘れかけていた初心を思い出す機会ともなりました。ありがとうございます。さて、今回多方面へ使わせていただいた「ありがとうございます」のフレーズですが、今後も多用することになることでしょうか。いつでもどこでも感謝の気持ちを忘れず、生活していきたいと思えます。

最後までこの文章を読んでいた



教育実践

NIEJUNION



社会科教育講座

教授

おしほら
篤原

すすむ

進先生

同窓会の皆様、お変わりございませんでしょうか。皆様には、教育学部・教育学研究科の取り組みにご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。社会科教育講座におります篤原 進（おしほらすすむ）でございます。

自分がしていること

私は、「アメリカ合衆国における社会科グローバル学習論の展開」を軸に研究を進めております。（そういうことになっております）。それらの成果の一部を生かして、社会科授業実践の改善、社会科教員養成・研修による授業の向上、主権者育成、グローバル・シテイズンシップ育成のための教育活動などについて、他大学の社会科教育担当者と共に研究を進めています。

また、約二十年前より、在学生や卒業生などとするやかで柔軟な「社会科教育フォーラム（Social Studies Education Forum: SSEF）」を組織し、研究と実践の共有や情報交換を行ってあります。サボることの方が多いのですが、年に一回は、在学生と卒業生に、同名の通信を送りつけており

ます。

かつては、各教員の専門を記した「〇〇研究室」でした。私の旧研究室名は、「社会科教育研究室」です。（それが、すべて「教員研究室」という看板にかわり、統一した表記になっております。また、今は、各部屋には部屋番号が付されています。）ですが、今も、それぞれの学問を尊重するからこそ、自由で風通しのよい社会科教室（社会科教育講座）の伝統と雰囲気はかわっておりません。そこで、大学教員としての仕事と責任を教わりましたし、今も、勉強中です。

実社会から学ぶ

「社会科」を「社会認識を通して、市民的資質を育成する教育」（「社会認識教育」と略記します。）の中心と考え、生活科、総合的な学習の時間、グローバル教育等の教育実践や学習論を、さまざまな方と交流しております。その「社会認識教育」にとつて、重要な媒体が新聞になると考えております。そのようなつながりもあって、NIEに関わっております。また、大学時代の恩師（小師匠）が、N

I Eに深く関わっていらつしやることも遠因です。

NIEとは

NIE（エヌ・アイ・イー）（Newspaper in Education）は、学校などで新聞を活用する活動です。一九三〇年代にアメリカで始まったと言われています。「教育に新聞を」と訳されています。日本でも、新聞記事などを取り上げた教育活動は戦前からなされてきました。が、教育界と新聞界（日本新聞協会）を挙げてNIEに取り組むようになったのは、四十年ぐらい前からです。背景には、特に若者の新聞離れ、活字離れがありました。NIEは、その目的に、社会性豊かな青少年の育成、活字文化と民主主義社会の発展を掲げています。私の教育・研究領域である「社会認識教育」の目的とも一致しております。最近では、NIEB（Newspaper in Business）の取り組みもなされています。

NIEの取り組み（入門編）

日本新聞協会が発行している『これならできる！新聞活用NIE入門ガイド』には、いくつかの事例が掲載されています。

- 「新聞のしくみを知ろう！」
- 「新聞に親しもう！」
- 「新聞をまるごと読もう！」
- 「新聞を授業で使おう！」
- 「新聞を比べて読もう！」
- 「新聞記事を書こう！」
- 「新聞をつくらう！」

が掲載されています。気になった方は、問い合わせしてみてください。

また、年二回、「NIEニュース」を発行しています。これは、ホームページからダウンロードできます。参考にしてみてください。

NIEの取り組み（発展編）

私は、NIEをなさっていらつしやる先生方に、次の三点をお願ひしています。

① 記事だけではなく新聞を丸ごと取り上げよう。

そのことは、新聞の社会的機能の理解になります。紙産業を知ることにもあります。「宅配」という同時の仕組みの意味も分かります。また、新聞のもつ物理的暖かさ、柔らかさが、災害時に必需品であることもわかります。民主主義社会の成熟に向けた方向性も見えてきます。

② メディアミックスを考えながら、児童生徒のメディア・リテラシーを育成しよう。

日本独特の新聞社とテレビ局の関係が分かります。他のマスメディア、ネットとの関係も分かります。それぞれのメディアの特徴や利用方法も分かるようになります。

③ 新学習指導要領のいう「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう態度（主体的に学習に取り組む態度）、人間性」（主体性、多様性、協働性）の育成とNIEは合致しています。

先生方が、実社会を教えてください。新聞と子どもとの仲介者であること、その重要性が分かります。先生方の社会の見方・考え方が問われることとなります。

NIEを支える組織
日本全体では、日本新聞協会を中心としてのNIE推進事業と自主的、自律的な教育・研究としての「日本NIE学会」の活動とがあります。

前者は、NIE実践指定校の指定、NIE全国大会、NIEアドバイザーの認定（当方とともに写真①に収まる「平井慎太郎」先生は、教職大学院教科領域コース現職派遣第一号であるとともに、NIEアドバイザーでもあります）、各地のNIE推進協議会の連絡調整などを行っています。後者は、年一回の研究大会開催、査読付きの学会誌の発行などを行っています。それぞれがホームページにて情報発信を行っています。気になる方は、検索してみてください。



写真① 平井さん（右）とともに

愛媛県におけるNIE組織

日本全体が大きく二つの組織によりなされているように、愛媛県においても二つの組織があります。

一つは、「愛媛県NIE推進協議会」です。現会長は、川崎 豊（愛媛県小中学校長会会長、松山市立東中学校）先生です。愛媛県

小中学校長会会長、県高等学校長協会会長、県教育研究協議会会長、県高等学校教育研究会会長、県私立中等高等学校連合会会長、県総合教育センター所長、県教育委員会義務教育課NIE担当、同高校教育課NIE担当、一般紙と通信社の総・支局長等から構成されています。NIE実践指定校を選定しています。皆様方の学校や知り合いの先生の学校が指定されているかもしれませんね。そのNIE実践指定校による実践発表を中心とした「NIEセミナー」を年二回開催し、『愛媛県NIE実践報告書』を発行しています。当方も、NIEセミナーにて報告を拝聴し、講評を行っています。(写真②は、二〇一九年度のNIEセミナーでの一コマです。)また、来年度のNIE全国大会は、松山市(県民文化会館)で開催される予定です。愛媛県NIE推進協議会のメンバーを中心に実行委員会を組織し、計画を練り準備を進めております。



写真② NIEセミナーでの講評

今ひとつは、「愛媛県NIE研究会」です。これは、NIEに取り組んでいる先生方の自主的な研究会組織です。年二回ほど、NIEセミナーや実践校説明会などの後に同日開催で会をもっております。主な内容は、新聞記者さんの講話、新聞記事を使ったワークシート作り、情報・意見交換、新聞社見学などです。(写真③は、学生さんたちにも参加してもらった二〇一九年度研究会での一コマです。新聞記者さんの講話の一場面です。)会長は不肖私が務めております。私は、この研究会の会長として来年度のNIE全国大会の実行委員も務めております。



写真③ NIE研究会での記者講話の一場面

と努めます。(コロナ禍でどうなっているかわかりませんが。)修学旅行の自由行動に組み入れると面白く思っています。また、今年の三月二十九日に開催された「政経懇話会」にて講演されたニュースパーク館長の尾高 泉(おだかいずみ)氏は、当然ながら、知り合いです。懇話会での彼女の演題は、「新型コロナウイルスと情報とわたしーSNS社会で確かな情報を見極める力」でした。

NIE・新聞・メディアの施設
三つほど紹介します。新型コロナウイルス、旅行等ができるようになったときには、訪れてみるのも良いと思います。
一つは、「ニュースパーク(日本新聞博物館)」です。日刊新聞発祥の地・横浜にあります。観光地である中華街や横浜スタジアムに近いところにあります。日本新聞協会が運営する情報と新聞の博物館です。情報社会と新聞・ジャーナリズムの役割、NIEにおける学校との連携について、参考にな

ると思っています。併設のカフェもお勧めです。(コロナ禍でどうなっているかわかりませんが。)修学旅行の自由行動に組み入れると面白く思っています。また、今年の三月二十九日に開催された「政経懇話会」にて講演されたニュースパーク館長の尾高 泉(おだかいずみ)氏は、当然ながら、知り合いです。懇話会での彼女の演題は、「新型コロナウイルスと情報とわたしーSNS社会で確かな情報を見極める力」でした。
二つ目は、熊本日日新聞社の「新聞博物館」です。熊本日日新聞社の設立四十五周年事業として開館した日本最初の新聞博物館です。ニュースパークよりも古いものです。さらに、一新聞社が運営しているところ、地元密着の形を知ることが出来ます。博物館から学校へ接近している取り組みなどもあり参考になります。熊本を訪れるときに少し立ち寄ってみても良いと思います。
NIE発祥の地とされるアメリカ合衆国には、首都ワシントンに、NEWSUM(ニュージウム)という、ニュースとジャーナリズムに関する博物館がありました。その日の世界各地の新聞が展示されていたり、アメリカ同時多発テロの展示や、東日本大震災を伝える三月十二日付「石巻日日新聞」(壁新聞として発行)が展示されていました。私には、高めの入場料が必要な博物館でした。残念ながら、二〇一九年末に閉館となりました。日本の博物館は生き残ってほしいと思っています。
三つ目は、地元の「愛媛新聞社」

「愛媛新聞印刷センター」です。新聞づくりの行程や工夫が見えます。コロナ禍以前のように見学が可能となった折には、「社会科学見学」「遠足」で訪れてほしいと思います。
当方のNIE
先のNIEを支える組織での取り組みに加えて、次の三つのことをしています。
一つ目は、学生のリテラシーの向上です。一回生向けの「新入生セミナーB」では、愛媛新聞社を見学しています。また、ある全国紙さんから選挙の出口調査のアルバイト派遣を頼まれ希望学生さんにしてもらったこともあり。ある新聞社さんの子ども向けイベントにおいて、希望学生さんに先生役をしてもらったこともあり。豊富な経験をして、実感に裏打ちされたリテラシーをもって就職してもらいたいと思っています。
二つ目は、教員免許更新講習講座の開設です。愛媛新聞社さんと協働で「新聞を学ぶ、新聞で学ぶ、新聞を作る」主体的・対話的授業に向けての講座を開設運営しました。何回かは、愛媛新聞印刷センターで実施でき、印刷機が稼働するときの音や風や匂いも体験してもらいました。法律の改正による教員免許更新制の解消により終わりを遂げました。
三つ目は、附属小学校での土曜学習にて「オリジナル新聞をつく

る」取り組みです。既存の新聞や新聞記事を生かしながら、自由な発想で、オリジナルな新聞を作ってもらいました。
実証や具体の重要性を伝えたい
残念ながら、愛媛大学や教育学部には学生新聞のようなメディアがありません。「社会正義」や「公正さ」や「民意」を意識した目で大学や学部のしていることを見ることのできる芽を育てることはできるのだろうか。(もちろん、個人的嗜好・思考でのSNS発信はできますが…)。そのような経験を経ていない人がほとんど職を得ていきますね。
妻の大学時代の恩師(札幌、仙台、広島、福岡などの地方中枢都市を研究する地理学者)が、「鳥が驚くなり、驚が鳥になる時代」というフレーズで、事実から真実を、足を使って、実証的に探究することの大切さを語っていらっしやいました。自分の大学時代の恩師(大講師)は、具体を大切にすることを教えてくださいました。理論的抽象的思考の成果を具体で示すこと、さらに、具体の中に潜む抽象を見いだすことの必要性を教えていただきました。
できる限り、学生さんをはじめ、何かをしようとしている人の取り組みには顔を出し、一緒に考えるようにしています。学生さんには迷惑でしょうが、それが、自分の使命だと感じております。
同窓会の皆様におかれましても、引き続き、よろしくお願ひ申し上げます。

「章光堂」築100周年記念行事を教育学部附属中学校で実施しました【2月14日(月)】



学部トピックス



令和4年2月14日(月)、「章光堂」が築100周年を迎えたことを記念して、教育学部附属中学校で記念行事を開催しました。

章光堂は、愛媛大学の前身である旧制松山高等学校の講堂として大正11年(1922年)2月14日に竣工し、その後、昭和24年(1949年)に教育制度の改正に伴い旧制諸学校が愛媛大学に包括された際に愛媛大学文理学部講堂となり、さらに、昭和38年(1963年)に附属中学校が持田地区に移転した際、愛媛大学教育学部附属中学校講堂となって現在に至っています。

また、昭和53年(1978年)には愛媛大学保存建造物に指定され、平成10年(1998年)には国の有形文化財に登録されるなど、旧制諸学校の施設のうち唯一の現存建物として威厳を保っています。

記念行事に先立ち、章光堂とともに大切に保存されてきた旧制松山高等学校正門の整備工事が完了したことを記念してテープカットを行いました。



章光堂外観②



章光堂外観①



旧制松山高等学校正門前でのテープカット

記念行事は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、旧制松山高等学校同窓会の秦敦事務局長、附属中学校後援会の杉本恭会長、附属中学校PTAの宇野健一会長をはじめ、旧制松山高等学校、文理学部及び附属中学校にゆかりのある方々などに限定してご出席いただき、YouTubeによるライブ配信にて開催しました。

第1部の記念式典は、事前にビデオ収録した附属中学校コーラス部による合唱の上映で幕を開け、佐野栄副学長による開式の言葉、仁科弘重学長による式辞の後、附属中学校同窓会の中城敏会長から祝辞をいただきました。続いて、附属中学校の日野克博校長、まつやま文化財サポートの会の中城康圓氏から「章光堂 今昔物語」と題して、附属中学校の教育活動と章光堂との関わりや歴史などについての講演がありました。

第2部の記念行事は、教育学部附属中学校卒業生の宮内秀樹衆議院議員をはじめ、附属中学校OBによる章光堂の思い出やお祝いのメッセージをビデオ上映したほか、附属中学校クリエイターズ・コンテストの入賞作品の発表及び表彰を行い閉会しました。

章光堂が、これからも若者の成長を見守るシンボルとして、附属中学校はもとより地域の皆様に末永く愛されることを大いに期待します。



仁科学長による式辞



附属中学校同窓会の中城会長による祝辞



附属中学校の日野校長による講演



ビデオメッセージ上映中の会場の様子

附属高等学校「プラガールズ」が文部科学大臣賞を受賞しました【11月14日(日)】

令和3年11月14日(日)、附属高等学校理科部「プラガールズ」の1年生チームが、オンラインで開催された「第4回グローバルサイエンスアワード “夢の翼”」において、「海洋性細菌による海洋マイクロプラスチック汚染の解決に向けて」をテーマに研究発表を行い、研究の着眼点やコンパクトで分かりやすいまとめ方が高く評価され、文部科学大臣賞を受賞しました。

これを受けて、令和4年1月18日(火)、本校で表彰式を開催しました。隅田学校長代読による賞状授与の後、新型コロナ感染拡大のため来校が叶わなかった大会実行委員会の千葉工業大学の日下部聡氏から審査の講評とお祝いの言葉をオンラインでいただきました。

生徒たちは、受賞の感想と研究から学んだことを述べ、感謝を伝えました。文部科学大臣賞の賞状は、本校玄関エントランスに掲示しています。

また、この「プラガールズ」は、令和3年11月6日(土)オンライン開催の北海道大学主催「海の宝アカデミックコンテスト マリン・サイエンス部門」でも準優勝にあたる「りゅうぐうのつかい賞」、特別賞の「マリン・サイエンス部門 医食同源賞」を受賞するなど、他の全国大会でも研究が高く評価されています。昨年度、それぞれの大会で活躍した先輩「プラガールズ」に続き、今後も益々の活躍が期待されています。



オンライン表彰式の様子



審査の講評を聴く生徒たち



賞状



受賞記念の立て看板の前で記念撮影

部活動紹介

愛媛大学合唱団



私たち愛媛大学合唱団は、大学院生一名、四回生十九名、三回生八名、二回生七名、一回生十一名の計四十六名で活動しています（令和四年五月末現在）。昨年、一昨年はコロナウイルス感染拡大の影響により、思うように合唱活動が行えず、新たな仲間を獲得することが困難な状況でした。しかし、今年は一昨年以上も含め、十三名の新入団員を迎えることができ、今まで以上に活気を持ち活動していきたくと考えています。



練習風景

リを用いて録音することで個人の課題の把握と曲の雰囲気を感じる練習を行ってきました。この二年間活動を止めないよう、様々な工夫を行って練習を続けてきました。その中で痛感したのが、合唱は共に歌う仲間がいて初めて成り立つものであるということ。今仲間と一緒に歌えていることを当たり前だと思わず、活動してきたいと思っています。

〈活動状況〉
合唱団は、愛媛県合唱祭、全日本合唱コンクール、定期演奏会という三つのステージを目標に活動しています。愛媛県合唱祭は、毎年六月に開催されており、新入団員を迎え、新体制になってから初めてのステージになります。全日本合唱コンクールは七月に県大会、九月に四国大会、勝ち進めると十一月に全国大会があります。どちらのステージも自分たちのスキルアップと県内外の団体の演奏を鑑賞できる貴重な機会として意欲的に参加しています。定期演奏会は、毎年十二月に開催しており、一年間の活動の集大成として位置づけています。ステージ構成は、副指揮者が振る第一ステージ、広く親しみやすい曲を演奏する第二ステージ、客演指揮者の先生に振って頂く第三ステージ、正指揮者が振る第四ステージです。現在も合唱祭やコンクールへ向けた練習と並行しながら、定期演奏会も見据えて練習を行っています。

〈第六十八回定期演奏会〉
合唱団では、十二月二十八日(水)十八時開演、松山市総合コミュニティセンター、キャメリアホールにて第六十八回定期演奏会を開催予定です。多数のOB・OGの方



第67回定期演奏会

に支えて頂き長年続いている合唱団ですが、早いもので、今年で六十八回目の定期演奏会となります。本団の定期演奏会は、一昨年はコロナウイルス感染症の影響で中止、昨年度は関係者と団員の保護者のみという制限がある中での開催となりました。今年にはコロナ以前のように、学生や地域の方をお迎えして演奏したいと考えてい

ます。年の瀬の忙しい時期ではありますが、足をお運び頂けると幸いです。

最後になりますが、日頃から愛媛大学合唱団に、ご支援・ご声援頂きありがとうございます。今後も合唱団のさらなる発展と合唱の魅力の発信に向けて意欲的に活動に励んでいきたいと思っております。



先輩を偲ぶ

あしあと (7)

先輩たちのあしあと

(教育学部同窓会百周年記念誌より抜粋)



一、二、三、
愛媛県師範学校
高橋 琢巳氏寄稿
(大正四年卒)

変わった題をつけてみた。題は内容を表わすものと思うが、このような題で果たして同窓の方のうち何人が読んで下さるだろうとおぼつかないが、私を知っている友人だけは一読されるかも知れない。多年京都に住みついてきて、おいおいにそのよい面がわかってきて、四季を通じ退屈はしないのである。これから本題に入る。



良寛「一、二、三」

事ではなく、かなりオープンな格式ばらない茶席であった。不慣れな私も好奇の目を輝やかしたが、とくに床の掛物(軸)の文字に心が引かれた。りっぱな軸で文字は「一、二、三」の三字である。亭主は(茶席の主人)季節により正客や連客の人がらによって掛物を選ぶのであろうが、どなたの筆蹟であらうかと気をつけてみると、表千家十三代即中斎宗匠の墨蹟であった。はて「一、二、三、」これは何を意味するのであろう。亭主はことさらにお客に向かって説明されるわけでない。見る人の心に任せるのである。私は興味をおぼえたが、思案せざるを得なかった。私流の解決は後回しにした。

二、三、四、五、六、七」とだけ書いたものである。井泉水は他に自分の作句二枚も出してた。私は一から七までならべた老俳人の書に對して、以前見た即中斎の軸のことを思い出し、また、はてな、と思案せざるを得なかった。

さらにかなり前に買入っていた根津美術館刊行の良寛遺墨集を開いてみると「一、二、三、傍に積良寛書」というのを見出し新たに心を引かれた。説明書きには「和尚様の字は読みづらいでわしらにもよくよく読める字を書いてください」と百姓爺に頼まれて書き与えたと伝えられる軸である、とあるが、これは全くあてにならない。第一写真版で見る積良寛のサインが読みにくいではないか。それに当時の百姓に与えたものがきれい大切に今日伝わるわけがない。それで、もとに戻って、即中斎宗匠の墨蹟、それから井泉水の書、一から七までの半折、良寛の書について私の理解し得た限りを述べる順序となった。

「一、二、三、」は数の基本であることは確かである。あるいは自然数の最初といつてもよい。老子の本には「一生^レ一。二生^レ三。」とある。私はまさにこれだと思つた。これから順次に無限の数が広がっていくのである。基本、あるいは順序を正しくというのが三人の戒めではあるまいか、私はそのようにとる。始めることが大切だ。ギリシャの古い言葉に「始めることは半ばなるなり」とある。しかし中途で断絶しては何にもならない。基礎を固めてその上に立つことだ。「千里の道も一歩より始ま

る」ともいう。一歩一歩をよく踏みしめて行かねばならぬ。「初心忘るべからず」は芸道の極意とされている。この秋には母校開校百周年記念祝典が催されるという。百年という数字は一年、二年、三年、を累積して来たものである。これまでに幾千を数える優秀な教育者を育ててきた母校である。私たちは母校の偉大な功績に矜持を持ち、輝かしい盛典に会うことに限りない喜びを感じる者である。

白楊会館今昔物語
愛媛県女子師範学校
波頭 夕子氏寄稿
(大正八年卒)

1 設立の動機(昭和九年発行 会館記念号から)

「我が母校も開校以来十有八年の歳月を閲しまして、二十周年の祝賀を迎えんとしています。白楊の茂りが今や三津の一隅に高くそびえまして偉観を呈してをります。そしてその下に育てられました同胞のみでも千有餘となりました。母校の発展、実にうれしい極みでございます。皆様の思い出の中にきつと若き日の数年をはぐくまれた三津のことがお有りだろうとお推し致します。何かにつけて魂のふるさとへの思慕は汲めどもつきぬものがございます。さり乍ら月日の移りと共に師に往かれ、友また去つて魂のふるさととして果たして皆様をお待ちする何ものがございませうか。

今、このふるさとに当然与えられなければならないものは卒業生の

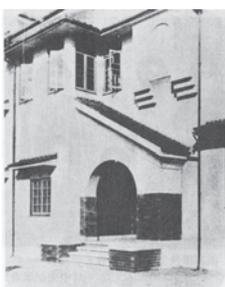
家ではないでしょうか。

そこでこそ我等は自由にかい心行くまで語りたいたいと思います。かつてみ教えを受けた先生方をこそえお迎へしたいとも思います。」

2 着想

昭和十三年、菊間第一に在任のころ、当時母校付属にお勤めの丸木キヌヨ姉に白楊館建設の件をご相談申し上げたところ、同姉から折り返し賛成、しかも激励のお言葉をいただいたので勇気百倍、構想を練った。私自身昭和三年四月に母校付属へ帰つたので、それから本格的に取りかかった。先づ三上校長・恩師田中・関根・神名の諸先生を始め、先輩松井いその姉・横山尚代姉・有田・浜田姉・松山三津の在任幹事・関東支部長・高須賀姉・県内支部幹事・松本真須子姉・其の他の諸姉に相談をもちかけた。いずれも賛意を得たので、そろそろ土地の物色にかかり、松山工業の多田筆太郎先生に設計依頼、棟梁は土地の名工馬野謀太郎氏に内定。募金にかかる。

土地三三八坪の代金三、四八五円、建築費八、七九〇円電機水道・石垣・設備費・その他雑費合計壹万五千元を会員壹千数百名で出しあうことになる平均一人拾円余の負担となる。月俸はもちろん當時松山市内でのポータスが壹円五





拾銭であったと聞く。当時の拾円が月俸に対してどんな比率を持っていたかを考えては、当時はもちろん、会館記念号に記録されたお一人お一人のご寄付金額を今見直して、すみませんでしたと、わびの言葉のべている。

しかし、千有余の同窓は黙々とこれにに応じてくれた。分割払いを残して死にゆく若い同窓が、「約束した金額を私に代って支払ってくれ。」父親に言い残したと言う。老いたる父親がそれを届けに見えたとき、涙がとまらなかつた。

誠心の結晶一万円が、会員だけの手で落成式までに出揃った。数年、日曜に家で休むいとまはなかつた。土曜日、日曜日を利用して、西に東に哀願の旅を続けたことを記憶する。本校付属代用附属在勤の先生方の心を合わせての御力尽くし、三津・松山の幹事の総動員。

3 落成の式典

着想から滿十一年、あ、かくして我らの家白楊会館は竣成した。昭和九年五月林伝次先生はその日次の歌をお届け下さった。

白葉のまろはまろ葉のひとつひとつ
風にさざめく五月晴かな

この日の感激、歓喜はこの歌が代表している。祝典に列した高須



白楊会館で、浜田園枝先生とその教え子たち (中央が筆者)

賀清子氏は語る、「初代の塩谷先生を筆頭に吾妻主事・中野先生・石井先生・久木田先生・瀧川先生・大三輪先生・先田先生方のご寄付をお土産に三津へとびました。」と。来賓の方々、本校付属の先生方の御臨席、多数の会員、盛大な落成式が行われた。三神会長のごあいさつによって幾多の難関突破にどんなにご尽力いたされたかが伺われた。おめでたき落成式になぜか涙が。

関根前会長の「我が子の生まれ出たの感で。」やっぱ涙が。三津第一校の影浦校長が「男子に先んじてこのようなりつばな会館ができておめでとう。」と言って下さった、やっぱ涙が。幹事長の報告をかねたごあいさつもうるみ声。今日のようなこびのうらに、幾多の涙にあげられた十年間が伺われて涙であった。

その後、母校が愛大に統合せられたが、白楊会館は同窓会館として三津の一隅にそびえている。私

が二年の勤務を終えて付属を去った後、有田文代姉・浜田園枝姉が幹事長となってお世話いただき、今は石丸茂子姉・武田マサヨ姉・矢野孝子姉・仲西常香姉、続いて相原・荊山・矢野の若手が後陣に控えている。

母校・同期生、そして恩師

愛媛大学教育学部
井上 志郎氏寄稿
(昭和二十八年卒)

わずか一四歳の子ども心に(もちろんそのときは、一人前の陸軍々人の心意気はあつたはず)、肉親との最後の別れを意識して、小六の弟に「両親・妹を頼むぞ。」と声をかけ、列車のデッキを踏んだ。そのとき、もう一度、この自分の臉にはつきりと焼き付けておきたい気持ちにせかされ、デッキの反対側にかけ寄りじつとみつめていたのは、村の鎮守の八幡様の森を背景にした母校堀江小の姿であった。それは三一年前、松山が空襲で焼土と化した翌々朝のことである。

そして一か月後、お互いの帰郷先を十分確かめ合うこともなく、金剛山をはるか東方に望む大阪の地を離れた。

それから二九年、音信もなく過ぎていたある日、市教委の電話に、東京からの声。その声の主は、五か月間、隣りの藁ぶとんで寝起きを共にした友人。彼の記憶の中にあつたのは、わずかに、私が時折り口にしてきた「まつやま」ということだけだったとのこと。同期の桜の消息が次第に判明していく中であつて「共に命を託し合った相棒を見つけ出さないでは、気がすまなくて……。」と彼は言う。彼の奔走のお蔭で、二か月後には、在京の仲間たちとの対面も実現した。そして、四〇余歳に成長した仲間が、一四歳の昔にかえり、思ひ出話に時のたつのを忘れ、お互いの健康を祝し合い、再会を約束して別れた。

が実現した。区役所から、先生に案内されて、先生のお宅までの途上、道路を横断するたびに、私の袖をひっぱるようになされて、「車が来たならばあぶないから、ちよつとお待ち……。」と声をかけられた。そのときの私は、先生にとつては、あいかわらず小二の幼な児でしかなかつた。折りにふれて、先生の面影と共に思い出される、懐かしい一こまである。

今この私にとって、恩師とよぶべき方々は、自分の成長の過程と共に、たくさんおられる。その中でも、小二のときの担任だった相原明子先生(旧姓吉田、女師昭九卒)は、私たちの小三進級と同時に転任されたまま、三五年間、私にとって消息不明のままだった。中学・高校と進むにつれ、とくに、恩師と同じ教職を生涯の仕事として選び、教壇に立つようになってからはなおさらのこと、当時の先生の、私への一言が、私にとつての懐かしい思い出であり、励ましとして今に生きていることを、ぜひとも申し上げたくて、また、自分の成長を先生に直接確かめ、認めていただきたくて、探し続けた先生である。

母校は、いつまでも私自身の心のふるさとである。同期生は、幼い日を、そして青春の日を同時によみがえらせてくれる。また、恩師は、私の指標であり、私自身を暖かく見守り、励まし続けてくれる存在である。

母校開校百周年記念事業の一つとしての同窓会会員名簿の改訂刊行も、同窓生諸兄姉のご尽力により実現した。この間、私の心の中に燃え続けていたものは、先きに述べた、母校・同期生、そして恩師の存在意義に対する思いである。同窓生名簿は、私たち自身のために、そして、恩師を探し続けた私のようなわれわれの教え子のためにも、大切に記録し整備されなくてはならない。すでに十数年か年、格別のお役に立つこともなく、教育学部同窓生として、本会副会長の重責を与えられている。今回発刊の名簿を、より正確にし、消息不明の方々を一人ずつでも確認し続けることを、私自身の責務と自覚して取り組んでいきたい。

今後とも、同窓生諸兄姉の、いっそうの御援助をお願いし、本会の充実、発展を祈つてペンをおく。

会員の声

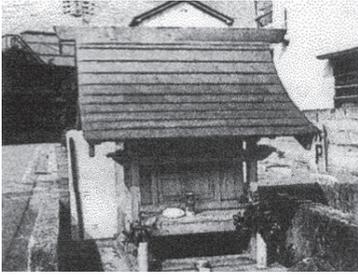
身近な歴史を正しく伝えましょうⅠ



近藤 元規

鶴宮さんとお囲池

所在地／松山市東築山町
今から数百年昔のことです。松山のお築山というところの池の近くに一本の古い松の木がありました。そして、一羽の鶴がかわいらしい三羽の雛を育てていました。ある日のこと、松山の御殿様が、鷹狩に行こうと言い出されました。そして、いろいろ支度を命じて休まりました。ところが御殿様はその夜夢を見ました。一羽の鶴が現れて、「わたしはお囲のそばの松の木に巣ごもりしている鶴でございます。明日は鷹狩があると



聞きましたが、何とか私達親子の命をお見逃しくださいませんか。もし親子がだめならせめて子供の命ばかりはお助けくださいませ。」とさめざめと泣きながら御殿様にお願いしました。翌朝、不思議に思われた御殿様は家来を呼んで、池の鶴のようすを確かめさせたところ、今朝方親鶴はかわいそうに射殺されたということでした。御殿様は涙を流して親鶴を哀れみましました。そして巣ごもりしていた所にお宮を建てて、鶴の霊を慰めました。今も「鶴宮さま」といって、小さなほこらがあります。

お築山とは昔松山藩のお花畑(藩主の別荘)があつたところ(藩主の別荘)です。お花畑には築山と石手川の豊富な伏流水をたえた泉水池がありました。泉水池は、寛政九年(一七九七年)に藩主松平定国が大洲藩より伊東祐根を招き、藩主に神伝流の水泳指南を行い、松山藩の水練場として使用していました。明治三十年(一八九七年)お囲池は市に寄贈され、松山

高等小学校の水泳場として多くの青少年がこの池で水泳の訓練を受けました。そして、築山には明治の頃に八束という人の果樹園が広くでき、梨と橙の木がたくさんあり、このあたりを築山の橙畑というておりました。その後お囲池は昭和三十七年に学校用地のために埋められて、現在は青少年センターになっています。

設立五十周年記念誌
八坂公民館のあゆみ
平成十三年五月三日



お囲池 (昭和36年)

お囲池のお地藏さん(万人地藏)のこと

お囲池(おかこいけ)と言っても知る人も少なくなりました。その昔、松山市青少年センターがある此花町二番地に、お囲池がありました。このあたりは慶長年間松山城主加藤嘉明の別邸として開かれ、其の後久松家の「お花畑」次いで松山藩の「射的場」となつたが明和五年(一七六九年)から藩の水練場となり、松山神伝流の開祖伊東祐根が藩主に水泳を教えました。旧藩時代には殆どの藩士はこの池で神伝流を修め、明治になつてからも松山出身の知名士の多くが青少年時代に一度はお囲池の水を飲んだ経験があるといわれ

ております。勝田主計、秋山好古、真之両將軍、山路一善、桜井忠温兩將軍、水野広徳海軍大佐を始め、お囲池の水に親しんだ人は数多く、松山神伝流の名声と共にお囲池の名も天下に伝えられました。明治維新後一時放置されたが明治三十年松山市に移管され、松山市は松山高等小学校水泳場として、毎年小中学生主体に千名近くの指導をしてきました。

この池の片隅に質素なお地藏さんが立っていました。高さ1m、幅40cmの自然石の上部に合掌した「女人像」が彫られ其の下に「明治十三年万人地藏」と刻まれている。明治十二年の夏、元松山藩士五百木某の一人娘(もらい子だった)がこの池で水死。翌年三月養母が娘の供養の為池の北西の隅に建てたもので「万人地藏」とは一人娘の犠牲によつて万人の安全を願つたものであろう。お囲池水泳場では「お地藏さん」と呼んで親しまれスジカイ水入(対角線の潜水)の目標でもあり北西隅の代名詞でもありました。長く泳いで寒くなつた時に小学生たちはカワリバンコ(交代での意)にこのお地藏さんに抱きついて体を温めていました。このお囲池は昭和三十七年市立城東中学の移転用地



として埋め立てられることになりました。松山神伝流水泳協会の猛烈な反対運動も実らず、埋め立ては強行されました。然し城東中学の移転はPTAや校区の人々の反対もあり実現しないまま放置され、結局昭和四十七年松山市青少年センターが設置されました。

「お地藏さん」は、池のほとりにあつた道路が拡張されたのに伴つて東北隅の道路端に移設され、付近の住民の方々によつて大切にまもられていました。左の写真は平成二十一年に撮影したものであります。

明治、大正、昭和、平成、令和と五代にわたり「お囲池」の盛衰を見守つてきたお地藏さんを訪ねてみると、道路を隔てた青少年センターの敷地の一隅に移転しておりました。「お地藏さん」も一刻の安住の地を得られたかと秘かに安堵致しました。

今ではこの場所に「お囲池」があつたことを知る人も少なくなりました。その存在を後世に残す記念碑もなく青少年センターの門の横に小さな掲示板か標識のようなものがあるだけである。「お地藏さん」は、ここに「お囲池」が存在したこと、又その栄枯盛衰を百数十年にわたりに見守つてきた唯一の証人であるが、その「お地藏さん」の由来も知る人は殆ど居なくなりました。時の流れとはいへ寂しい限りであります。

令和三年四月二十九日
主馬神伝流
松山神伝流水泳協会
会長 近藤 元規

お囲池は埋め立てられて姿を消しました

前頁にお囲池の鶴宮さんと、お地蔵さんの事を記しました。これを見ればお囲池の輪郭がおぼろげながらお分かり頂けるのではないのでしょうか。

松山市の築山町に松山藩の水練場として、神傳流泳法を日本各地に伝えたお囲池がありました。第二次世界大戦後に時代の流れには逆らえず昭和三十七年に埋め立てられて昭和四十七年に松山市青年センターが建てられました。埋め立てられて半世紀、平成二十七年春、校区の中学校の同窓会入会式の席上、出席の生徒や先生に「お囲池」を知っているかどうか尋ねてみました。(お囲池)の名を知っていたのは女性の先生ただ一人でした。たかが半世紀でこの有様に驚きました。当時三十歳の人でも五十年経てば八十歳のお爺さんお婆さんになり、現在五十歳の方は池の姿を見たことも無いのです。後世の人々にもお囲池のことを記憶にとどめてほしいと思います。

第二次世界大戦の遺産も記憶の外に

松山空港の滑走路の外れに大戦前の飛行機の掩体壕(えんたいごう)があります。戦闘機を空襲から護る格納庫です。現在の掩体壕と滑走路の間には、県道伊予松山港線が走り滑走路と掩体壕の間は全く通行できません。八十歳の男性に掩体壕が松山市の有形文化財に指定されたことを話すと、昔滑走路から飛行機を掩体壕にどのよ

うにして移動させたのかと質問されました。昔は滑走路が掩体壕の所まで続いていたと教えました。また、松山総合公園山頂に以前は高射砲が据えられ空を睨んでいたことも知る人は少ないでしょう。

このような例は身の回りに数多くありますが、気にする人は、数少ないと思います。

話は学校の卒業生名簿のことに なります。

昭和三十二年の冬松山市立御幸中学校で学校火災が発生、学籍簿等の一部が焼失し卒業生の氏名などが判らなくなりました。時の校長先生が同級生の父上でしたのでその去就を心配しましたが昭和三十三年四月に退職されました。その数年後私が同窓会のお世話をする事になり、なんとか卒業生の名前を調べたいと、教育委員会等に問い合わせましたが卒業生の名前は学校にあり教育委員会には保管されていないとの回答でした。創立間もない新制中学のこととして生徒数も少なく薄っぺらな卒業生名簿を数年前に若干部作製したことを思い出し、手を尽くしてようやく一冊を発見、これを学籍簿に残すものと併せて保管する事にしました。卒業生の名前だけは残すことができました。

次は松山南高等学校創立百二十周年記念同窓会名簿(平成二十三年度版)を手にした時に明治時代に在職された歴代職員の方々の名前が多数欠落していることを発見しました。同窓会にお知らせし

ましたが、氏名の欠落はご存じないようでした。

資料を探していると「七十周年のあゆみ(昭和三十六年版)」が手元になりましたので開いてみると、幸いなことに歴任教職員名簿が載っておりまして。これには逝去された先生方のお名前を、逝去欄にまとめて載せてありました。この(逝去欄)が次の名簿をつくる時に何かの手違いで抜け落ちたものと推察します。七十周年から百二十周年の五十年間に歴任教職員名簿が発行されたか私は知りません。松山南高にもそのような資料は見あたらないようでした。

幸い今年、令和三年十一月に新しい同窓会名簿が発行されるようです。すから名簿が完全なものになることを楽しみにしております。

次は松山師範学校の名簿です。友人が明治初期の松山師範学校卒業生のことを調べようと愛媛大学教育学部同窓会会員名簿(平成二十一年十二月版)を開くと明治八年から二十年迄の名簿が抜け落ちていたのを見つけました。愛媛大学によると個人情報保護の観点からここの数十年新しい物は作っておらず、今のところ当面の計画も無いとのことで同窓会名簿の脱落部分は判らないと云うことでした。

私の祖父が松山師範学校の明治二十三年の卒業生でしたので幸運にも大正十四年発行の「愛媛同窓会報告第二〇八号」を手元に置いておりました。この同窓会報告に明治大正期の名簿が載っておりま

教育学部に提供しましたので、名簿の欠落部分が補填され完全な状態で後世に残されると信じ喜んでます。

愛媛県立図書館にも愛媛大学教育学部と同様に完全な名簿がありませんでしたので、後日データの提供を予定しております。

亡くなったロシア兵の慰霊記録碑のようにたとえ善意から出た誤りであっても大佐の墓になつてしまつては後世の人々に誤った歴史を伝える恐れがあります。お囲池、戦争の遺跡などのようにそのものが、無くなつたり周辺の状況が変更されては多くの方々の記憶から消え去り正しい歴史は伝わりません。管理する行政官の方々も数年でそのポストを離れ移動することが多いとおもわれますのでその記憶を伝承する事の困難さは理解できます。それ故に一文を草しました。

同窓会の名簿の継承については、新しい名簿を見て正しく出来ているか検証する人はいないと思います。何か調べようとしたときに不備があれば気がつくのでしょうか、そこで名簿の是正まで考える人は少ないでしょう。

私は今年八十六、一生に三度も同窓会名簿の欠落に遭遇し三度は是正に関わる事は珍らしいことであり、ささやかではあるが後世の役にたつたかと自ら喜んでいきます。新しい松山南高の新しい名簿が十一月に出版されます。個人情報保護の考え方と同窓会名簿がどのような形で融合するのか楽しみでもあり不安でもあります。小さ

な小さな事ばかりですが誤った歴史、忘れられた歴史を正しく後世に残していきましょう。みなさまも。

おまけ

現在の政府の虚偽にまみれた政治の中でその当事者が、コロナから国民の安心安全を守ると云いながら患者が激増する中でオリンピックを開催し、国民に安心安全を保証すると繰り返し返しています。安心安全を保証と何度叫んでもオカミ少年の云うことを信じる国民がどれだけのいるのでしょうか？

森友問題、桜を見る会等々一連の嘘の連続は、「間違いをただし、正しい歴史を後世に伝えましょう」と本稿を書き始めた私の本旨とはかけ離れた大嘘、大間違いです。

昔、時代に合わなくなった食糧管理法に反対し、闇米を堂々と売り、ついに食管理法を廃止に導いた川崎磯信氏の信念と馬力に敬意を表します。現在頑張っている赤木夫人、信念を曲げず戦って欲しいと思います。私はそれだけの信念も力も無い八十六歳の老いぼれです。命が続けば再度発信する機会が在るかもしれません。今後とも宜しくお願い申し上げます。

令和三年七月二十二日東京オリピック2020開会を間近にして
松山歴史文化研究会 近藤 元規

私を抱いてくれた人は戦死した



井手窪 理
(昭和三十七年卒)

私は昭和一四年(一九三九)一〇月生まれです。すでに日本と中国は全面戦争に突入し泥沼化していました。

私の祖父彌三郎は明治二四年(一八九二)愛媛県伊予郡出渕村に生まれました。明治三十一年出渕尋常小学校に入学。同四年には高等小学校になりました。尋常科四学級、高等科二学級。祖父が高等科まで通ったかどうか分かりませんが、祖父の使った和綴じの国語の教科書「帝國讀本卷之四」がわが家にあります。(写真1)小



写真1



写真2

学校卒業後しばらく家で弟などの子守りをしていました。やがて高本角藏の弟子になります。角藏は大変立派な大工でした。昭和三年(一九二八)に弟子たち七名が相計って「名匠高本角藏之碑」を菩提寺の積翠山盛景寺の境内に建立しています。その中には祖父の外に弟力藏の名もあります。また、後援者十九名の中にも弟松五郎の名があります。(写真2)話はさかのぼります。大正二年(一九一三)頃ある民家の建築を請け負いました。木造二階建てで

立派に完成。やがてその家の娘と結婚しました。その二人の間に生まれたのが私の母です。

大正一二年(一九二三)九月一日、関東大震災が起りました。この日の朝日新聞「関東の天変地異帝都の混乱言語絶す。東京市中大惨状を呈す。各所に火災と家屋倒壊、火災四十八ヶ所に及び火焰遙かに高崎より望見さる。横浜市は死滅の惨状」等々新聞はこのことのみで紙面を埋めました。死者夥しく、全く悲惨な状態でした。愛媛においても帝都復興の熱が高まり、多くの大工が帝都復興急進会の名のもとに集団で上京したのでした。祖父もその一人でした。祖父も大変几帳面な仕事をしており、信望が厚かったようです。昭和一〇年には近くの仏日山大興寺の位牌堂(内部本漆塗)を建立しています。そして昭和二九年には盛景寺位牌堂も建立しています。我が家の仏壇は祖父の手になるものです。

弟子も何名か育てました。弟松五郎もその中の一人だと思われま。私はその中の一人の青年について書かなければなりません。井手上義隆。大正八年(一九一九)五月、出渕村大字栃谷、小字井手

ノ上生まれ。祖父もその家の下で生まれたのです。義隆は、祖父のもとに弟子入りしました。そして、三年の年季が明け、家を一棟建てました。

その頃、私が生まれたのです。ついては、私の父のことについて書かなければなりません。父秀雄は、明治四三年(一九一〇)双海町高野川生まれで、昭和四年(一九二九)愛媛師範学校を卒業しています。(写真3)同年四月喜多郡久米小学校の教壇に立ち、教師生活の第一歩を踏み出しました。同六年四月榑生村沖浦小学校、同八年四月白滝小学校、同一年

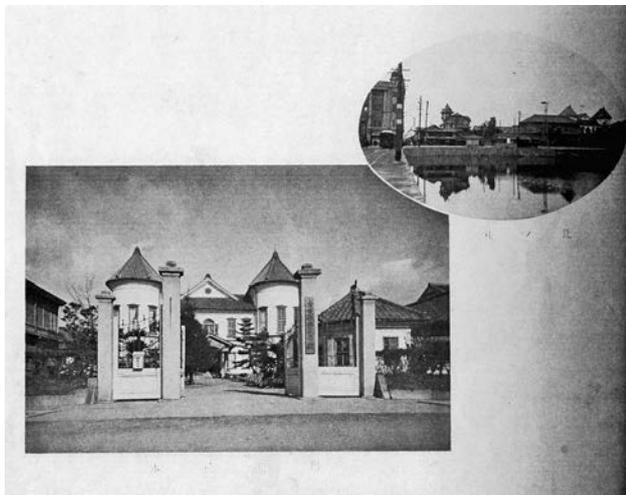


写真3

満穂小学校石畳分校と勤務し、やがて同一三年に私の母と結婚しました。私はその翌年一〇月に生まれました。その頃は、三日間にわたる大洲夏季藤樹研究会に参加しています。私の手元に昭和一二年藤樹頌徳会発行の「藤樹先生年譜」という小冊子が残っています。研究会のテキストだったのでしよう、父の丁寧な文字でメモ書きしています。

さて、義隆青年に話をもどします。義隆に召集令状がきて佐世保に入隊したのは、昭和一五年(一九四〇)一月一〇日のことでした。あるいは、召集が決つたの

でこの写真を撮ったのかもしれない。二十歳そこそこの柔道着姿の義隆青年が、寝起きしていた部屋の前で赤ん坊の私を抱いて、今も祖父のアルバムに納っています。なかなかの好青年です。(写真4)



写真4

昭和一六年一二月八日、太平洋戦争(大東亜戦争)勃発。「同一八年二月八日本州南方方面の戦斗に於いて奮戦中、戦死す。享年二五歳」と「中山町戦没者名鑑」にあります。「勲八等旭日章陸軍二等兵曹 天真院義山道隆居士」。平成二九年八歳年下の弟さんより話を聞くことができました。「九月に遺骨が帰ってきました。私は当時新居浜の会社で働いていましたが、葬儀には帰してもらえませんでした。町葬でした。」

この時、義隆の兄のことも聞くことができました。「名鑑には『勲八等旭日章陸軍兵長井手上延治 大正五年五月二七日生 利三郎次男 光岳院敢行勇進居士 昭

和一八年一月七日応召し周布隊に属し奮戦中同二〇年三月一七日比島ルソン島リザール州に於いて戦死す(享年三〇歳)』弟(義隆)が先に戦死なので、兄は『自分が戦死したら、弟と一緒に埋葬してくれ』と言っていました。」私は後日二人の墓を訪ねました。生家近くの墓地に埋葬されているかと思つたら、下の県道の所にあるかと思つた。皆に見ていただくほうがよからうとそうしたと近所の方が案内してくださいました。

昭和二〇年(一九四五)六月八日 天皇臨席の最高戦争指導会議で本土決戦の方針を採択。わが家の大人たちもなんとかして食べていかなければならないと、農家出の祖母は農地を借りて一生懸命野菜や穀物を作りました。国防婦人会に属している母たちは「この草食べられるか」とこれまた一生懸命工夫しました。

近所の家の裏の畑に防空壕を造りました。しばらくして近くの牛市場の片隅に造り変えました。「空襲警報発令!」の時には私たちも何度か防空壕に避難しました。その時の暗く陰鬱な空気を今も思い出します。わが家の空高く飛行機が空中戦をしていました。この年

七月の松山市大空襲の時には町の北標高八七四の秦高山の空が真っ赤に見えました。

昭和二〇年八月一日五正午、天皇の「終戦の詔書」録音放送を近所の散髪屋のラジオで聞きました。この戦争での日本人軍民戦死者は厚生省算定によれば、昭和一二年(一九三七)七月七日の盧溝橋事件(日中全面戦争勃発)以後、三一〇万人。一方、中国人死者は、中国側見解によれば二、

一六八万余人、台湾側見解では一、一六三万余人という桁違いの数字だそうです。

私は、昭和二二年四月中山国民学校に入学。同一一月三日 日本国憲法公布。昭和二二年五月三日で挙行されました。中山町では、地区別に大人も子どもも一緒に練習歩きしました。(写真5)

日本国憲法前文「日本国民は、



写真5 新憲法發布を祝う(伊予市〈中山町〉・昭和22年)

昭和21年、新憲法が公布され、国をあげて祝賀行事が行われた。中山町では、地区別に大人も子どもも一緒になって仮装し、町内を踊りながら練習歩いた。泉町の女性たちの記念撮影である。

(平沢アツ子氏提供)

正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民と協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。」

なお、さきの井手上兄弟の遺影は、彼の菩提寺の盛景寺本堂に兄弟そろって他の戦没者と共に掲げられています。

(参考資料)

- 1 中山小学校 開校百年のあゆみ 一九七三
- 2 郷土を造る人々 昭和人事録 (地方人事総合調査会)
- 3 中山町戦没者名鑑 (中山町遺族会)
- 4 週刊クロニクル「週刊二〇世紀一九四五(昭和二〇年)」 (朝日新聞)
- 5 目で見る伊予・上浮穴の一〇〇年 (郷土出版社)

英訳「教行信証」

—Mark L. Blum博士・序文の残り—



吉原 宏文
(昭四二卒)

遂に、Blum博士の序文の最終章に辿り着いた。しかし、私の訳文は教育学部の同窓会報には相応しくないのではないかと危惧する一方、きつと異彩を放つものとして高評を博していると自負している。ともあれ、ここまで継続できたことは私の力となつている。

さて、私は教育学部を卒業後、大阪府茨木市立中条小学校に赴任した。そこで、小学三年生の担任となり、その中に鳥飼達夫君がいた。彼が、後に特異な歌手として活躍している嘉門タツオである。個性豊かな児であったが、まさか日本中を沸かす芸能人になるとは夢想だにしていなかった。その後、四年間勤めた教職を辞し、念願の仏教学を勉強するため、京都の法然上人を仰ぐ浄土宗・知恩院の宗門大学である佛教大学大学院に進学した。新たな冒険のスタートであり、修士と博士両課程の五年間、研究に挑戦することができた。その最終年度で

は、京都大学を定年退官され、佛大に就任された、インド仏教学の碩学・梶山雄一先生の、龍樹の「中論」のサンスクリット原典講読に出席し、私は「優」の評価を得た。その際、先生が不図、「仏様が見える？ 当たり前ですよ！」と洩らされた言葉が今も印象に残っている。

また、佛大に関して面白いことに、夕方六時五十分に始まる、子どもに大人気の、NHK・最長寿アニメ番組・「落第忍者・忍たま乱太郎」の原作者・尼子騷兵衛さんは、佛大文学部日本史学科で学ばれている。男性のような強い名前であるが、実は、本名を片根紀子さんといい、写真を見ると大変な美人である。兵庫県尼崎市出身で、騒々しい所なのでペンネームにしたとのことである。私は、愛大と佛大院との九年間、学びに集中できたことが私の学力を形成してきた、と確信している。佛大院の終りに、浄土宗の宗務総長が来られ、「浄土宗の僧侶にな

らないか？ バックアップするから」との有り難い言葉を頂戴したが、既に、浄土真宗の僧侶になる決意をしていたので、丁寧に断りした。総長は、「仏教界にとっては慶ばしいが、宗門にとっては残念」と言って帰られた。それから、私は、親鸞聖人の東本願寺派で得度し、正式の真宗僧侶となった。その後長年の無理が祟り、統合失調症を煩った時期もあり、その試練を乗り越え、結局、西本願寺派へ転派することとなった。しかし、そこで待ち受けていたのが、母校・愛媛大学教育学部同窓会であった。まさに、救いの神で大きさを実感している。

今、反省してみると、法然上人の事績は、当時の貴族社会の専有物であった仏教を一般庶民に解放し、念仏運動が我々人間生命の息吹きとなり、現代への日本の歴史社会を動かす根源の力として、連綿と繋がって来ている、と思わずにはいられない。

さて、Blum博士の締め括りにもどらう。

我々は、ここで、法然教義の優れた点と、親鸞が法然教義を解釈し擁護する仕方を詳しく掘り下げて考える必要はない。このため、読者は翻訳自体と付け加えられている註に導かれる。しかし、親鸞

と真宗の資料を翻訳する鈴木の特の接近についての一語あるいは二語は全般に労を費やす価値がある。このため、万人にとって必ずしも明確でないかも知れない。他の場所、私は「教行信証」の四つの英訳を比較した。また、鈴木

の翻訳の流儀が、浄土仏教に関して、彼自身の信念を確める助けになるかも知れないと書いた。今再び、その要点に触れるつもりはない。しかし、「教行信証」と他の浄土著作集を翻訳する鈴木の接近は素晴らしく、説得力があり、彼にとつては当然のことである、とだけ言っておこう。これは、鈴木

の選択が常に非の打ちどころがない、ということではなく、彼がこの翻訳において、親鸞が本当に目差したことに、深く理解するために、我々読者に挑戦していることである。これは、言葉と觀念の論理を越えることであり、伝えられていることの言外の意味を熟慮することである。

このよい例が、鈴木が「本願」の訳語として「祈り (prayer)」を選択したことである。「本願」と言う語は、神話的意義を持つ仏陀や菩薩によつてなされる誓い (bodhisattva vow) のための幾分、包括的な用語である。従つて、一方で、浄土教的伝統の信奉者達は、「本願」に極めて特別な意味を見い出す。事実、我々は、彌勒 (Maitreya)・地藏 (Ksitigarbha)・そして薬師 (Bhaisajyaguru) も「本願」を持つことを知っている。また、浄土教的伝統においてさえ、この用語には少しの曖昧さがある。何故なら、阿弥陀仏は、経によつて異なる誓いをするから。事実、法然と親鸞の両者は他の経、即ち、四十八願が与えられている、康僧鎧 (Saṅghavarman) の作と考えられている「極樂莊嚴經」(Sukhāvatyūha sūtra) から引用している。(この経には、大本「無量壽經」と小本「阿弥陀經」の二本がある。) 他方で、たとえば、読者がその経の他の翻訳と、阿弥陀仏が述べられている他の全ての経、を無視するとしても、法然は、仏陀の教訓の核心としての第十八願を認めており、さらに、「本願」から他の願を除外しない。事実、鎌倉時代に萌芽を持つ豊かな浄土文学作品を散見すると、作家が第十八願と全ての願に言及しているかどうかは屢々不明確である。その際、誓い (vow) は、阿弥陀仏によつてなされたのではなく、後に阿弥陀仏になった僧侶、即ち、法蔵菩薩 (Dharmakara Bodhisattva) によるところ事実の問題がある。二つの独自性(主体性)を一つに融合させることは、ある意味では明確な真実であるかも知れない。しかし、それは、人

間存在としての、即ち、我々のよ
うなまだ不確実な輪廻の未来に
直面している死すべき運命の者の
体験の意味を否定することになり
はしないか。大乘經典では、衆生
と仏陀とは、世界を同じようには
見ないことは、極めて明確である。
そこで、「本願」の法藏の局面を
否定することは、イエスキリスト
(Jesus Christ) の人間性を否定
するのに似ている。即ち、神話の
力を弱めるのと同じ結果を持つ。

この点で、現代において、最
も説得力のある仕方では、浄土
談話を復活したのは曾我量深
(一八七五—一九七二)であった。
曾我は、二十世紀の前半で、浄土
教思想の神話的局面的、定義かつ
再定義を試みた鈴木と同時代人の
一人であった。その他で顕著な
存在は西田幾多郎(一八七〇—
一九四五)、近角常観(一八七〇—
一九四一)、そして野々村直太
朗(一八七二—一九四六)であ
る。まず初めに、これら全ての
人々が、お互いに五年の内に生ま
れたことは、興味深い。しかし、
私は、彼らの関心事は、当然の事
ながら、彼らの世代の共通の知的
議題を定義することであったと考
える。更に、彼ら自身の間で、こ
れらの事柄について討論したであ
ろうと推定することは理に適つて
いると思う。例えば、鈴木と西田
とは親友であり、一緒に成長した

ことは周知のことである。また、
鈴木と曾我は大谷大学で交際して
いたので、両者の間で交わされた
若干の対話集がある。この仲間
は、鈴木は稀な例外であった。彼
は、一九六〇年代に生きていたの
で、所謂ビート族の間における仏
教への関心の高まりを目撃する機
会を持った。しかし、鈴木は歴史
的境遇の大部分は、戦前(即ち、
明治の後半、大正、昭和の前半時
代)である。従って、彼の戦後の
経験からして、彼の全著作を何と
なく現代風(postmodern)であ
るかのように見るのは早とちりで
ある。「教行信証」のこの英訳に
関しては未解決のままであり、そ
の草稿は一九六一年に完成し、確
かに、彼の夥しい戦後の浄土教
的全著作集は、戦前のそれらとは
異なる展望を見せる。

我々が鈴木を如何に見るかは、
彼の言葉を如何に読むかにかかわ
り、そのまま、彼自身が親鸞を如
何に見、その言葉を如何に読むか
に關係するので重要である。例え
ば、鈴木は翻訳の最終出版では、
「行」の「実践」(practice)と
いう標準的訳語に対して「生きる
こと」(living)と、この訳語を取
り替えている。親鸞は、歎異抄
(しかし、他にはどこにもない!)
第八章において、念仏行を行
為ではなく、また業的に善いふ
るまいですらない(非行・非善)

と述べている。そして、親鸞の唯
一の説明は、それが他力である
から非実践(nonpractice)であ
る、ということである。通常の理
解では、親鸞の意図は、真の念仏
は仏陀に始まり、従って他力と表
現されると断言することであつ
た。しかし、親鸞は「生きること」
(living)については、その文脈
では何も言っていない。即ち、そ
の概念は、鈴木が天才による表現
である。読者は、鈴木が親鸞の念
仏の概念を、個人的に限定された
目標に向かって方向づけられた、
個人的な活動の道ではない、と表
現したかったのだと推測するか
も知れない。しかし、「生きるこ
と」(living)という用語と「大
行」に「崇高に生きること」(great
living)という用語を選択するこ
とによって、鈴木は、我々が「為
すこと」、「信すること」、「生きる
仕方」との間の關係に全く新しい
展望(vision)を開くだけでなく、
彼が、直ちに、まさに真宗、と同
時にまさに鈴木であるところの念
仏そのものについて挑発的声明を
なす。ここで私が仄めかす真宗の
伝統は、真宗に共通であるが、浄
土教の他の形態には全般に欠けて
いる一法然についての私の理解
は、正確には鈴木が教えている一
信仰の対象としての念仏の具象化
(objectification)である。しか
し、鈴木は、我々の日常生活にお

いて、他力念仏の内面化を仄めか
すことによって、彼自身の一工夫
を加える。教・行・証の間の分割
のこの断絶を拡大して、即ち、人
が「為すこと」・「言うこと」・「考
えること」一業を生み出す自力
世界の三つの手段(身・口・意の
三業)一において、人が他力信
仰(信心)を現実化するとき、念
仏の意味が沸騰する。神秘論者の
妙好人のように、命が感じられ、
その仕方では生かされているとき、
我々の一息一息が念仏になる。

このテキストで、我々がその
様々な下書きを持っていることは
注目に値する。そこで、鈴木が奮
闘し、懸命に努力した表現の仕方
を我々は拝見する。「行」と「本
願」のような余りにも有り触れた
仏教概念が「生きること」(living)
と「祈り」(Prayer)として定着
される以前の、「実践」(practice)
と「原初的誓い」(original vow)
の適用を経験したあと、その両語
に決着するまでの心の過程につい
ては、鈴木は、何の言及もしてい
ない。しかし、所謂出版された
未完成の序文に、「本願」につい
ての短い議論がある。ここで初め
て、「誓い」(vow)とこの言葉を、
彼が何故避けるかを詳しく述べて
いる。例えば、それは空虚で誤解
を招きかねない、とだけ説明して
いる。しかし、不幸にも、彼が何
故にそのように感じるかは、我々
に何も語っていない。

他の場所では、私は、親鸞と「教
行信証」についての鈴木の展望の
分析を試みた。それ故、「本願」
に対して、彼の「祈り」(prayer)
という言葉の使用の理解の可能な
方法の提案を含めて、ここで繰り返
返す必要はない。しかし、言及す
る価値があるのは、この翻訳で明
白にされた、鈴木は言葉の選択と
言葉遣いが、この二つの注目に値
する実例(「行」と「本願」)のよ
うに、如何なる他の言語とも異な
る英語で「教行信証」のこの際
立った形式を翻訳したことであ
る。従って、信心深いテキストの
研究者のために、個々の解釈への
余地を残している。しかし、ここ
で、鈴木が我々のために示したこ
とは、中国語(漢文)で書かれた
真に靈感を受けた宗教的テキスト
を取り上げて、それを英語で書か
れた本心に靈感を受けた神聖なテ
キストに変えた、ということでは、
正に奇跡というほかはない。

二〇一三年(令和四年)六月十三日(月)
私の八十歳(傘寿)を記念する
誕生の日
目下、ロシアのウクライナ軍
事侵攻という大悲劇が続いて
いる。祈る、美しい国・ウク
ライナに栄光あれ!と
(☎) 731-0135 広島市安佐南区長束
一丁目一八一五

放送大学入学生募集のお知らせ

放送大学では、二〇二二年十月入学生を募集中です。

〈募集期間〉

二〇二二年六月十日（金）～

九月十三日（火）

放送大学はインターネットやテレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では心理学・福祉・文学など幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

○ 放送大学の大学院を利用して、専修免許状の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。



放送大学
教養はエネルギーだ。
一科目からでも学べます
2022年度10月入学生募集中!
(2022年9月13日まで)
問合せ先 愛媛学習センター
TEL 089-923-8544

●インターネットで資料請求・出願できます。 ●資料請求専用フリーダイヤル
放送大学 www.ouj.ac.jp ☎ 0120-864-60C

○ 放送大学の科目を利用して、司書教諭資格の取得が可能です。

資料を無料で差し上げております。お気軽に愛媛学習センターまでご請求下さい。

愛媛大学ミュージアムから

～企画展示案内～

「菊川國夫 旧蔵コレクション展」	令和4年7月30日(土)まで	第2常設展示ゾーン
「糸・紙・織の造形 千代田憲子展」 ～テキスタイル造形と空間～	令和4年7月30日(土)まで	企画展示スペース 多目的ルーム
「愛媛の首長竜!?化石」 ～道後姫塚産白亜紀遊離歯化石～	令和5年3月31日(金)まで	エントランスホール
「聖地へのあこがれ」展	令和4年8月1日(月)から 令和5年4月1日(土)まで	第2常設展示ゾーン
昆虫展2022	令和4年8月6日(土)から 令和4年8月10日(水)まで ※この期間、一般観覧は行いません	ミュージアム全館 (完全事前予約制)

現在、愛媛大学ミュージアムは「愛媛大学ミュージアムの新型コロナウイルス感染症に対するBCP」によって異なる観覧方法としております。来館される前に「愛媛大学ミュージアムのホームページ」、または「電話連絡」での確認をお願いします。

開館情報は、インターネットで  『愛媛大学ミュージアム／愛媛大学について』
または ☎ 089-927-8293 (月～土10:00～16:30)



愛媛大学
ミュージアム

令和4年度 支 部 長 会 報 告

新型コロナウイルス感染拡大のため2年間書面決済で実施してきた支部長会ですが、6月4日(土)校友会館2階サロンにおいて小助川学部長にご臨席いただき対面形式で開催いたしました。

予定していた議案及び確認資料は下記の通りです。

【会次第】

- 1 開会のことば
- 2 会長挨拶
- 3 教育学部長挨拶
- 4 各支部長自己紹介及び支部紹介
- 5 議事（議長：松山支部長）
 - 議案1 令和4年度本部役員改選案について
 - 議案2 令和4年度同窓会役員案について
 - 議案3 令和3年度事業報告について
 - 議案4 令和3年度決算報告について
 - ・監査報告
 - 議案5 令和4年度事業計画案について
 - 議案6 令和4年度予算案について
 - 議案7 令和4年度支部助成金案について
 - 議案8 令和4年度支部活動支援費案について
 - 議案9 第18回愛媛大学教育学部同窓会懇親会について
 - 議案10 その他について
- 6 連絡事項
 - ・第13回ホームカミングデーについて
 - ・会報原稿担当予定について
- 7 閉会挨拶（副会長：立入副会長）



挨拶をする高橋会長



教育学部の現状と今後について話される小助川学部長



支部長会の様子

【結果報告】

各議案とも賛成多数で承認となりました。

【その他】

「第18回教育学部同窓会懇親会」ですが、9号議案として審議していただく予定でしたが、5月14日開催の第1回理事会において会員の皆さんの健康と安全を考え、中止と決定いたしました。次回開催は令和6年8月に「第19回愛媛大学教育学部同窓会懇親会」として開催予定です。

令和4年度 役員表

愛媛大学教育学部同窓会

本	顧問	小助川 元太・奥 定一 孝		監 事	尾 脇 康 資	事務局長	阿 部 修 一
	会 長	高 橋 治 郎			相 原 孝 裕		
部	副 会 長	立 入 哉	山 下 雅 司	村 上 朋 子	菅 田 顕	金 築 治 美	
	理 事	青 野 多 喜 夫	長 野 照 道	山 本 千 鶴 子	満 田 泰 三	村 上 嘉 一	
		和 田 和 子	阿 部 晋	垂 水 葉 子	後 藤 陽 三	矢 野 裕 司	
		辻 井 芽 美 子	白 石 久 美 子	渡 邊 恵 理			
		山 内 望	玉 井 知 津 江	石 川 圭	森 口 朝 子	吉 岡 舞	
兵 頭 宣 彦		福 岡 幸 恵					

支 部 名	支 部 長		副 支 部 長		副 支 部 長	
	川之江・新宮	篠 原 隆 輔	新 宮 中	高 木 淳	上 分 小	矢 野 博 幸
伊予三島	一 柳 直 宏	寒 川 小	竹 内 小 百 合	寒 川 小	石 川 美 穂	松 柏 小
土 居	毛 利 雅 彦	小 富 士 小	河 村 智 恵 美	関 川 小	高 橋 正 成	長 津 小
新 居 浜	畑 野 一 恵	大 生 院 小	中 野 久	中 萩 小	井 川 昭 二	船 木 小
西 条	石 原 道 代	神 戸 小	高 松 由 香 里	氷 見 小	高 橋 保 夫	西 条 西 中
東予・周桑	山 田 裕 之	多 賀 小	吉 岡 健 二	丹 原 小	杉 野 学	多 賀 小
今 治	藤 原 勝 彦	富 田 小	亀 田 義 彦	立 花 小	山 口 峰 松	桜 井 小
今治・越智	脇 阪 順 三	伯 方 小	菅 洋 二	鴨 部 小	菅 征 永	宮 窪 小
北 条	毛 利 直 史	北 条 小	橘 和 道	難 波 小		
松 山	尾 脇 康 資	番 町 小	大 久 保 礼 子	余 土 小	正 岡 洋 介	城 西 中
東 温	山 本 浩 二	南 吉 井 小	石 丸 敬 二	川 上 小	田 原 久 嗣	西 谷 小
伊 予	山 下 吉 信	広 田 小	伊 達 泰 明	砥 部 小	久 保 田 貴 章	南 山 崎 小
上 浮 穴	佐 藤 太	美 川 小	竹 本 明 仁	仕 七 川 小	久 保 愛 彦	父 二 峰 小
大 洲	森 岡 也 寸 志	大 洲 東 中	松 井 英 樹	長 浜 小	飯 野 剛 宏	菅 田 小
喜 多	元 永 和 孝	石 畳 小	宮 部 修 一 郎	五 十 崎 中	山 本 浩 史	天 神 小
八 幡 浜	脇 坂 耕 三	喜 須 来 小	上 田 徳 彦	真 穴 小	井 上 武 彦	八 代 中
西 宇 和	竹 上 正 也	伊 方 中	木 村 良 太	三 机 小	大 石 友 紀	瀬 戸 中
西 予	岩 本 数 明	野 村 中	三 好 則 史	大 野ヶ 原 小		
宇 和 島	山 崎 厚 弘	鶴 島 小	三 浦 克 文	二 名 小	武 内 和 也	岩 松 小
北 宇 和	古 谷 孝	愛 治 小	上 甲 和 典	三 島 小	酒 井 浩 子	泉 小
南 宇 和	片 山 新 也	福 浦 小	小 林 智 洋	長 月 小	井 上 武	家 串 小
附 属	山 内 望	附 属 特 支	石 川 圭	附 属 特 支		

県外支部	東 京	成 見 由 紀 子	森 孝 枝	
	京 都	河 野 直 樹		
	大 阪	令 和 4 年 度 3 月 末 を も っ て 解 散		
	神 戸	平 山 昇		
	岡 山	春 名 貞 和	飯 網 義 明	近 藤 立 志

編集委員	阿 部 晋	山 下 雅 司	矢 野 裕 司
	村 上 朋 子	阿 部 修 一	

→新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止（または書面議決方式による）

令和3年度 事業報告

令和4年度 事業計画

Table with 3 columns: Date, Event Name, and Details. Rows include 4.6 (入学式), 4.14 (会計監査), 4.21 (第1回常任理事会), 5.7 (第1回編集委員会), 5.15 (第1回理事会), 6.5 (支部長会), 6.16 (第2回編集委員会), 7.1 (同窓会報132号発行), 7.7 (第3回編集委員会), 7.16 (第2回常任理事会), 7.31 (第2回理事会), 11.13 (第12回愛媛大学ホームカミングデー), 11. (未) (学部サポーター制による講義), 12.17 (第4回常任理事会), 1.19 (第4回編集委員会), 2.1 (同窓会報133号発行), 2.5 (第3回理事会), 3.4 (第5回常任理事会), 3.24 (令和3年度卒業式).

Table with 3 columns: Date, Event Name, and Details. Rows include 4.4 (令和3年度会計監査), 4.6 (令和4年度入学式), 4.20 (第1回常任理事会), 5.6 (第1回編集委員会), 5.14 (第1回理事会), 6.4 (支部長会), 6.15 (第2回編集委員会), 7.1 (同窓会報134号発行), 7.6 (第3回編集委員会), 7.15 (第2回常任理事会), 7.30 (第2回理事会), 8.21 (第18回教育学部同窓会懇親会), 11.12 (第13回愛媛大学ホームカミングデー), 11. (未) (学部サポーター制による講義), 12.16 (第4回常任理事会), 1.18 (第4回編集委員会), 2.1 (同窓会報135号発行), 2.4 (第3回理事会), 3.3 (第5回常任理事会), 3.24 (令和4年度卒業式).

令和3年度 決算書

令和4年度 予算書

(収入の部)

(単位：円)

Income Statement table for FY2021 with columns: Expense Item, Budget, Actual Income, Change, and Summary. Rows include 1.会費, 2.寄付, 3.雑収入, 4.繰越金, and Total.

(収入の部)

(単位：円)

Income Statement table for FY2022 with columns: Expense Item, Budget, Previous Year Budget, Change, and Summary. Rows include 1.会費, 2.寄付・会報送料, 3.雑収入, 4.繰越金, and Total.

(支出の部)

(支出の部)

Expense Statement table for FY2021 with columns: Expense Item, Budget, Actual Expense, Change, and Summary. Rows include 1.会議費, 2.旅費, 3.印刷費, 4.通信費, 5.給与費, 6.備品費, 7.消耗品費, 8.支部助成費, 9.卒業記念費, 10.国際交流基金, 11.懇親会補助費, 12.支部活動支援費, 13.学部活動支援費, 14.雑費, 15.予備費, and Total.

Expense Statement table for FY2022 with columns: Expense Item, Budget, Previous Year Budget, Change, and Summary. Rows include 1.会議費, 2.旅費, 3.印刷費, 4.通信費, 5.給与費, 6.備品費, 7.消耗品費, 8.支部助成費, 9.卒業記念費, 10.国際交流基金, 11.懇親会補助費, 12.支部活動支援費, 13.学部活動支援費, 14.雑費, 15.予備費, and Total.

※△は減額を示す

愛媛大学教育学部同窓会会則

第1章 総則

第1条 (名称)

本会は、愛媛大学教育学部同窓会と称する。

第2条 (所在地)

本会は、事務局を松山市文京町3番地愛媛大学教育学部事務課内に置く。

第3条 (支部)

本会は、愛媛県下各郡市及び必要と認めるところに支部を置く。

第2章 目的及び事業

第4条 (目的)

本会は、会員相互の親睦向上を図るとともに、母校を支援し、もって教育振興に寄与することを目的とする。

第5条 (事業)

本会は、目的達成のため次の事業を行う。

- 1 会員の親睦並びに教育振興に関する事業
- 2 会報発行に関する事業
- 3 母校の支援に関する事業
- 4 その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会員

第6条 (会員)

本会は、次の会員をもって組織する。

- 1 正会員
 - ・愛媛師範学校(男・女)卒業生
 - ・愛媛青年師範学校卒業生
 - ・愛媛大学教育学部卒業生
 - ・愛媛大学大学院教育学研究科等修了生
- 2 客員
 - ・母校の現職員及び旧職員
- 3 準会員
 - ・愛媛大学教育学部在学学生
 - ・本学部卒業生外の大学院教育学研究科 在学学生

第4章 役員

第7条 (役員)

本会に、次の役員を置く。

- 1 顧問 若干名 会長 1名 副会長 若干名
 - 2 理事 若干名 常任理事 若干名
 - 3 監事 2名
 - 4 事務局長 1名
 - 5 支部長 各支部 1名 副支部長 各支部2名
 - 6 支部幹事 会員在勤各学校1名
- 第8条 (役員を選任)
- 1 顧問は、愛媛大学教育学部長及び同窓会長経験者を推す。
 - 2 会長・副会長・監事は、総会において選任する。

第9条 (役員任期)

会長・副会長・理事の任期は2年とする。但し、再任は妨げない。なお、任期途中で交代した場合は、前任者が残した任期とする。

第10条 (役員任務)

- 1 顧問は本会の主要な事項について諮問に応ずる。
- 2 会長は、会務を総括する。
- 3 副会長は、会長を補佐し会長事故あるときはその職務を代行する。
- 4 常任理事は、常任理事会を組織し、本会の諸事業を企画立案し、理事会の議案に資する。
- 5 理事は、理事会を組織し、本会の主要事項について協議する。
- 6 監事は、本会の事業状況及び収支決算状況を監査する。
- 7 支部長は、各支部の会務を掌る。

第5章 会議

第11条 (総会) 総会は年一回開催し、支部長会をもって総会に代えることができる。

第12条 (支部長会) 支部長会は、本会の目的達成に必要な事項について協議する。

第13条 (理事会) 理事会は、年3回(5月・8月・1月)開催し、常任理事会より提出された議案について協議する。

- 1 支部長会は、会長が招集し、必要ときは臨時招集することができる。
- 2 支部長会の議長は、支部長の中から選出する。
- 3 常任理事会は、年5回開催し、会則第5条に示された事業の企画立案をし、理事会の議案資料の作成にあたる。
- 4 常任理事会は、会長が招集する。必要あるときは、臨時招集することができる。
- 5 議案資料の作成は、事務局長がこれにあたる。
- 6 常任理事会の議長は、会長が務める。

第6章 会計

- 1 本会の経費は、会費及び寄付金等をもってこれにあてる。
- 2 本会の会費は、入学の際に納めるものとする。
- 3 本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 会則変更

第14条 本会の会則を変更するときは、総会の決議を経なければならない。

附則

本会の会則は、令和元年6月8日より実施する。本会の運営上必要な内規は別に定める。

愛媛大学教育学部同窓会 支部活動支援金交付要綱

第1条

【目的】

この要綱は、愛媛大学教育学部同窓会（以下「愛教同窓会」という。）会長が、「愛教同窓会」活動の振興と支部活動の活性化を図るため、各支部及び支部に属する会員が行う自主的な活動に対して、予算の範囲における支援金交付に必要な事項を定めるものとする。

【支援金申請者】

第2条

本事業の申請者は、支部長とする。

第3条

【支援金対象事業及び支援額】
本事業の対象となる事業活動及び支援金額は審査会（常任理事会）において審議する。

第4条

【支援金申請手続き】
本事業支援金を受けようとする支部及び支部に属する会員は、「愛教同窓会」会長が定める期間内に、下記書類を「愛教同窓会」事務局に提出しなければならない。

- (2)(1) 支部活動申請書（様式第1号）
- (2) その他、必要と認める添付書類

第5条

【支援金の交付決定】

「愛教同窓会」会長は、前条の規定による申請を受理した場合、その内容をすみやかに審査し、常任理事会の意見を聞いて支援金の交付を決定するものとする。

2

「愛教同窓会」会長は、前項の規定により支援金の交付を決定したとき、すみやかにその旨を申請者に通知するものとする。

第6条

【支援金の交付請求】

支援金の交付決定を受けた申請者は、すみやかに支援金交付請求書（様式第2号）を「愛教同窓会」会長に提出しなければならない。

第7条

【支援金の支払い】

「愛教同窓会」会長は、申請者から交付請求書の提出があった場合、書類受理後常任理事会を経て交付する。

第8条

【活動実績報告および決算報告】

支援金を受けた申請者は、支援事業の交付決定にかかる年度の11月30日までに、下記の書類を「愛

第9条

【交付の取り消しまたは返還】

「愛教同窓会」会長は、次の各号いずれかに該当する場合は、交付決定の全部または一部を取り消し、支援金の全部または一部を返還させることができる。

- (1) 支援金の交付申請に不正の事実があったとき
- (2) 支援金を目的以外の用途に使用したとき
- (3) 支援事業を中止したとき
- (4) 支援事業を遂行する見込みがなくなったとき
- (5) この要綱に違反したと認められたとき
- (6) 実績額が支援金交付額に満たないとき

第10条

【その他】

この要綱に定めるもののほか、支援金交付に関する必要な事項は、「愛教同窓会」会長が別に定める。

(様式第1号) 年 月 日
愛媛大学教育学部同窓会 会長 高橋 治郎 様
愛媛大学教育学部同窓会 支部 支部長 印

愛媛大学教育学部同窓会支部活動支援金申請書					
支部名					
活動名					
活動予定日時					
参加会員数 (予定数)	現職	人	その他	人	総計
	〇日				
支部の活動目的・内容 (活動目的・内容をできるだけ簡潔に記入 ※詳細は計画書添付のこと)					
目的					
実施・共催					
内容	※天幕か1日記入様、実施計画書を添付				
予算書	※天幕かな予算額を記入後、実付いた支援金額を記入 ※予算添付のこと				
	※天幕かな予算額を記入 ※天幕か1日記入様を添付				
本件連絡先	Email: doekokai.ed.shime@gmail.com TEL: 089-927-9383(月・水・金の午前中)				

(様式第2号) 年 月 日
愛媛大学教育学部同窓会 会長 高橋 治郎 様
愛媛大学教育学部同窓会 支部 支部長 印

愛媛大学教育学部同窓会支部支援金請求書			
活動名			
活動日時	年 月 日() : ~ :		
請求金額			
一 金			
上記金額を支部支援金として請求いたします。			
代表者(担当責任者名) 印			
送込先	金融機関名	支店名	口座名
			口座番号

(様式第3号) 年 月 日
愛媛大学教育学部同窓会 会長 高橋 治郎 様
愛媛大学教育学部同窓会 支部 支部長 印

愛媛大学教育学部同窓会支部活動支援金報告書					
支部名					
活動名					
活動予定日時	年 月 日() : ~ :				
参加会員数 (予定数)	現職	人	その他	人	総計
	〇日				
報告内容 (全体の様子や会員の様子を簡潔に記入)					
活動の様子	※添付として、活動実績(会員別)としてA4 1ページ(1ページを越えても良い)にまとめた報告書、予算(天幕か1日)を添付 ※写真等は自由				
会計報告	※天幕かな報告と添付記入 ※詳細は決算書添付のこと ※報告責任者2名以上の署名で提出(天幕か1日) ※2ページ以内				
本件連絡先	Email: doekokai.ed.shime@gmail.com TEL: 089-927-9383(月・水・金の午前中)				

同窓会事務局からのお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、

8月21日開催予定の
第18回愛媛大学教育学部同窓会懇親会は
中止 とします。

楽しみにしておられた会員の皆様！ 誠に申し訳ありません。

次の「第19回同窓会懇親会」は令和6年（2024年）8月開催予定です。



表紙作品について

「祈る」



中岡 紘子
(昭三七卒)

【表紙説明】

終息のみられないコロナ感染症。いつ終わるとも分からないウクライナ情勢など……。この先の見えない生の不安と死の恐怖。

ただひたすら祈ることしかないもどかしさ。

祈るとは、「神仏に祈願すること」。本来は唱えるの意味が中心だったので、「(神仏)を祈る」の形をとったが、しだいに、願う対象に重点が移り、「(神仏)に……を祈る」の形になった。(古語辞典)
私は、中国の化足石窟の媚態観音からイメージを広げ、観音の石像にひたすら祈る僧の姿を描いてみた。紫木蓮を供えて。

敬 弔

(物故会員)

4・1・7	4・1・6	4・1・5	4・1・3	4・1・1	3・12・23	3・12・18	3・12・9	3・12・7	3・12・5	3・12・5	3・12・4	3・12・4	(死亡年月日)
(昭28・愛大) 行本 隆見	(昭29・愛大) 菊池 雅子	(昭21・愛師女) 北岡 實栄	(昭18・青師) 藤原 広年	(昭22・愛師) 日野 淳	(昭37・愛大) 閑 正行	(昭26・愛大) 門屋 桂子	(昭35・愛大) 加藤 明子	(昭29・愛大) 白木 伸武	(昭28・愛大) 竹本喜久子	(昭23・青師) 田坂 正教	(昭29・愛大) 平野 範里	(昭25・愛大) 武智 勇	(氏 名)
4・3・27	4・3・20	4・3・11	4・3・8	4・2・24	4・2・22	4・2・20	4・2・14	4・2・2	4・1・28	4・1・26	4・1・16	4・1・13	(死亡年月日)
(昭28・愛大) 百合田歌子	(昭26・愛大) 松野 泰久	(昭26・愛大) 児島 敏博	(昭31・愛大) 田口 實	(昭24・愛大研) 池本 覺	(昭24・愛師) 宇都宮美和子	(昭27・愛大) 五百木教男	(昭30・愛大) 池内 謙三	(昭30・愛大) 八木 光秋	(昭28・愛大) 池田 泰昌	(昭30・愛大) 湯浅 泰	(昭19・愛師女) 近藤三重子	(昭38・愛大) 川中 淳一	(氏 名)
					不 明	4・4・29	4・4・16	4・4・10	4・4・10	4・4・5	4・3・30	4・3・29	(死亡年月日)
					(昭24・愛師) 二宮 文風	(昭32・愛大) 小倉 教男	(昭22・愛師女) 星加 國恵	(昭32・愛師) 松友 嗣文	(昭20・愛師) 権名津 隆	(昭38・愛大) 落合 常章	(昭25・愛師) 荻山 安隆	(昭33・愛大) 工藤 保	(氏 名)



※同窓会へのご寄附ありがとうございました。

沖原 義光 様	藤原 元晴 様	栗田 忠士 様	浅井 里美 様	中路 美恵子 様	石村 俊夫 様	羽野 元将 様	竹葉 修 様	高山 達子 様	平田 政子 様	露口博臣(良子) 様	令和4年1月～6月
---------	---------	---------	---------	----------	---------	---------	--------	---------	---------	------------	-----------

寄 付 者 名



会員写真館



会員の皆さんが撮った写真を紹介するコーナーです。それぞれの地域や会員の皆さんが何気なく撮った写真を事務局にお送りください。



【今回は各地域の会員から送られてきた写真を掲載しました】

- ① 徳島県勝浦町のグローバルビッグひな祭り
広い会場全体に全国のおひなさまが飾られていて壮観でした。
- ② 庄原市備北丘陵公園のイルミネーション
公園全体を使ったバラエティに富んだイルミネーションを楽しみました。
- ③ 四国88ヶ所^{ぜんじぶじ}32番禅師峰寺からの太平洋

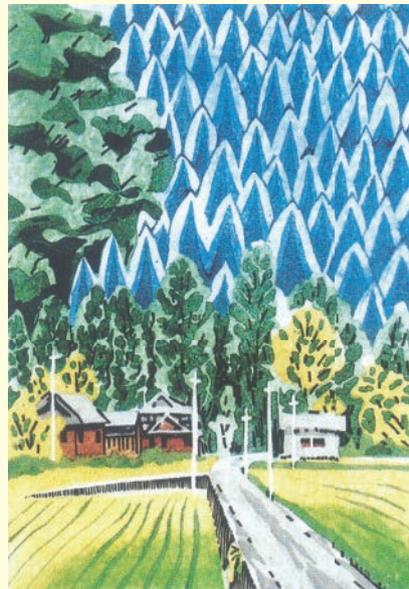
文芸欄

版画「川井正の世界」パート3

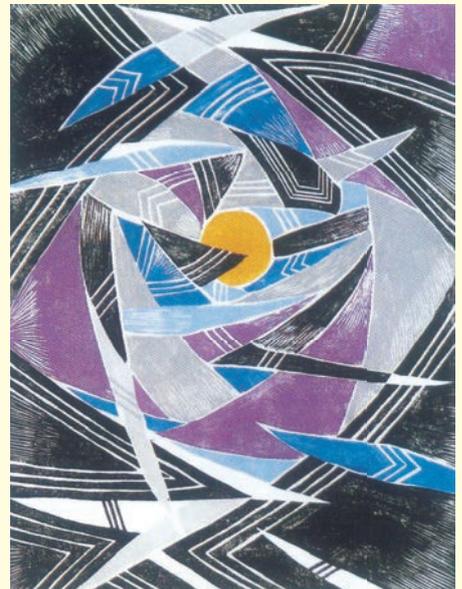
川井正作品集より抜粋



早乙女



里山の初夏



女子学生